青森県埋蔵文化財調査報告書　第264集

野木遺跡 II

― 青森中核工業団地整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 ―

（第 4 分 冊）

1999年3月

青森県教育委員会

目　　次

（第１分冊）
序

例　言

目　次

第１章　調査の概要　（第１分冊～第３分冊）
第１節　調査に至る経過 …… 1
第２節　調査の要項 …… 3
第３節　調査の方法 …… 4
第４節　調査の経過 …… 4

第２章　遺跡の環境
第１節　遺跡の位置 …… 5
第２節　基本層序 …… 6

第３章　東　区
第１節　古代の遺構と出土遺物 …… 16
1　竪穴住居跡　（301H～365H） …… 16

（第２分冊）
1　竪穴住居跡　（367H～497H） …… 233

（第３分冊）
2　土坑 …… 521
3　その他の遺構 …… 597
（1）焼土状遺構 …… 597
（2）溝状遺構 …… 603
（3）畝状遺構 …… 621
（4）掘立柱建物跡 …… 624
第２節　遺構外出土遺物 …… 625
（1）土師器 …… 625

（2）須恵器 …… 637
（3）その他の遺物 …… 637

（第４分冊）
第４章　西　区
第１節　検出遺構とその出土遺物 …… 657
1　竪穴住居跡 …… 657
2　土坑 …… 703
3　その他の遺構
（1）溝状遺構 …… 713
（2）焼土状遺構 …… 720
第２節　遺構外の出土遺物 …… 721

写真図版 …… 723

（第５分冊）
第５章　自然科学分析
第１節　土師器の蛍光X線分析 …… 745
第２節　放射性炭素年代測定 …… 752
第３節　プラント・オパール分析、花粉分析 …… 758

第６章　まとめ …… 777

写真図版 …… 779

引用参考文献 …… 1133

報告書抄録 …… 1135

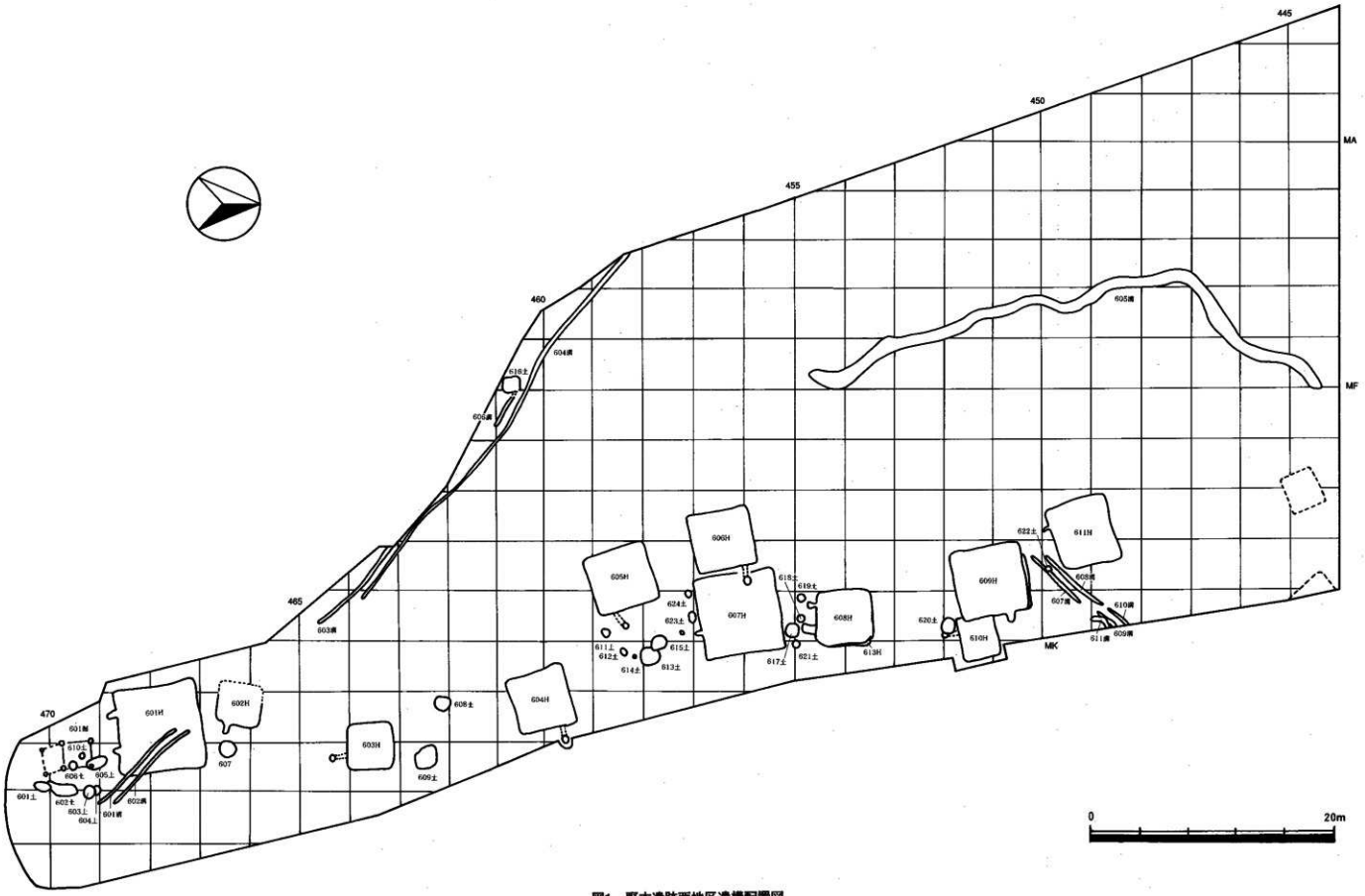


図1 野木遺跡西地区遺構配置図

第4章　西区

第1節　検出遺構とその出土遺物

野木遺跡西地区で検出された遺構には、調査着手順に600番台から命名した。検出された遺構は、竪穴住居跡13軒、土坑24基、溝状遺構11条、掘立柱建物跡1棟である。

1　竪穴住居跡

第601号竪穴住居跡（図2～9）

［位　置］　ML－MM－467・468に位置する。

［重　複］　第601号溝状遺構・第602号溝状遺構と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］　東壁6m62cm、西壁6m52cm、南壁6m55cm、北壁7m10cmの方形である。床面積は42.66㎡である。また、主軸方位はN－4°－Wである。

［壁・床面］　壁は垂直に近い立ち上がりである。壁高は、東壁58～71cm、西壁0～37cm、南壁36～100cm、北壁0～36cmで、斜面下方の北西側には壁及び床面が遺存していない。床面は、ほぼ全面に貼床を施しており、平坦に整えられている。カマドのある南西側には段差があり、カマド部分が2～8cmほど高くなっている。

［周　溝］　斜面下方の北西部には検出されていないが、本来は幅8～25cm、深さ10～25cmの周溝が一巡しているものと思われる。また、周溝の底面には小ピット状の落ち込みがいくつかあることから、腰板状の施設があった可能性がある。

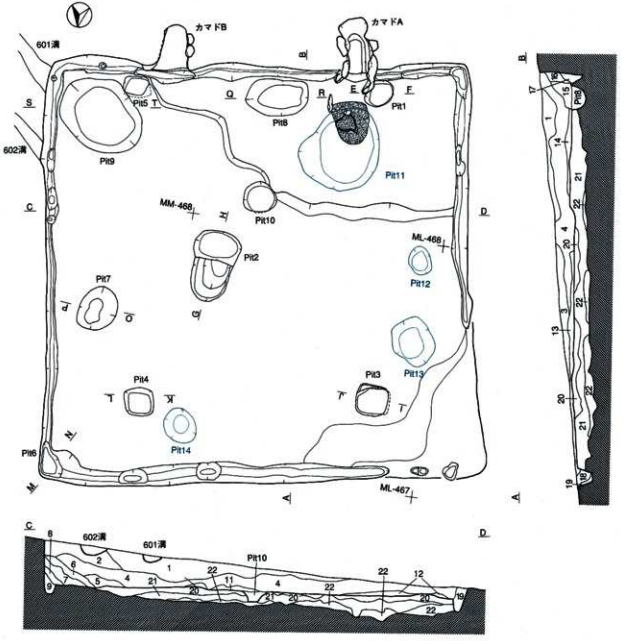
［ピット］　ピットが9個検出され、貼床を剥がした段階にはさらに4個のピットが検出された。その内、ピット1・3・4・5が主柱穴になるものと考えられ、平面形は方形を呈している。

［カマド］　南壁に2基構築されている。東側が古い時期のカマドBで、西側が新しい時期のカマドAである。カマドAは半地下式カマドで、80cmほど住居跡外に延びている。袖部は粘土で構築されていたようであるが、東側袖の一部には礫を芯材として用いている。火床面中央やや奥には支脚として、破損した甕の底部片を伏せた状態で設置している。煙道は緩やかに立ち上がり、天井部には粘土で覆われていたようである。煙道は掘り方を有している。東側のカマドBも半地下式カマドで、70cmほど住居跡外に延びている。カマドを作り替えた際、火床面が削平されたものと思われ、遺存していない。

［その他の施設］　南東隅には、142×108cmの楕円形を呈する深さ34cmのピット9がある。確認面に玉砂利と土器が出土しており、カマドAの使用時期には埋められ、床面として使用されていたものと考えられる。南西部にあるピット11は、146×125cmの楕円形を呈し、深さ35cmで底面にかなりの凹凸がある。これもカマドAの火床面下にあることから、カマドB使用時期に機能していたものと考えられる。

［堆積土］　堆積土は19層に分層され、暗褐色土と黒褐色土を主体としている。自然堆積の可能性が高い。貼床層は3層に分層される。

［出土遺物］　野木遺跡西地区ではもっとも出土遺物が多い住居跡である。覆土・床面から土師器坏・甕・広口壺、須恵器坏・甕・大甕、砥石、鉄製鍬（鋤）先などが出土した。南東隅のピット9上面から、土師器甕（図5－3、図6－5）が5～30mm大の玉砂利20点ほどとともに出土した。玉砂利を入

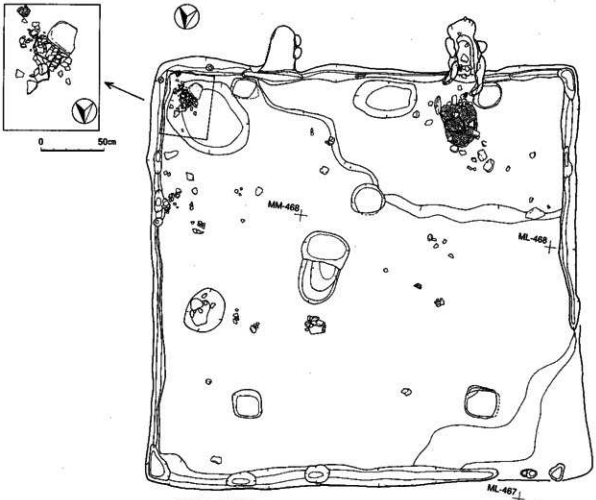


第601号竪穴住居跡

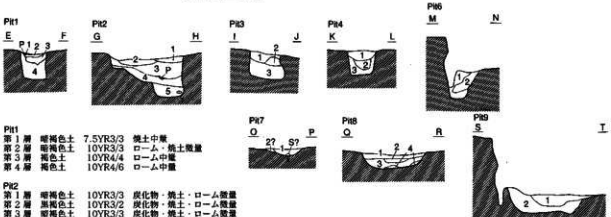
第1層	暗褐色土	10YR3/4	
第2層	暗褐色土	10YR3/3	にぶい黄褐色土（10YR4/3）少量　炭化物・浮石微量
第3層	暗褐色土	10YR3/3	にぶい黄褐色土（10YR4/3）・浮石少量　炭化物微量
第4層	黒褐色土	10YR3/2	にぶい黄褐色土（10YR4/3）焼土・浮石微量
第5層	黒褐色土(10YR2/3)と暗褐色土(10YR3/4)の混合土		焼土微量　浮石少量
第6層	褐色土(10YR4/4)と明褐色土(7.5YR5/6)の混合土		浮石微量
第7層	にぶい褐色土	10YR4/3	炭化物微量　浮石少量
第8層	暗褐色土(10YR3/4)と明褐色土(7.5YR5/6)の混合土		炭化物・浮石微量
第9層	暗褐色土	10YR3/4	浮石微量
第10層	褐色土	10YR4/4	明褐色土(7.5YR5/8)中量　炭化物・焼土微量
第11層	褐色土	10YR4/4	炭化物・焼土・浮石微量
第12層	黒褐色土(10YR2/3)と褐色土(10YR4/4)の混合土		炭化物微量・浮石少量
第13層	暗褐色土	10YR3/3	浮石微量
第14層	にぶい褐色土	10YR4/3	炭化物・焼土微量
第15層	褐色土(10YR4/4)とにぶい黄褐色土(10YR5/4)の混合土		炭化物・焼土・浮石少量
第16層	暗褐色土	10YR3/4	にぶい褐色土(7.5YR5/4)・浮石微量
第17層	褐色土(10YR4/4)とにぶい褐色土(7.5YR5/4)の混合土		
第18層	暗褐色土	10YR3/3	浮石少量
第19層	黒褐色土	10YR3/2	浮石微量
第20層	褐色土	10YR4/6	貼床　ＬＢ中量
第21層	黒褐色土	10YR3/2	貼床　焼土少量　ＬＢ中量
第22層	褐色土	10YR4/4	貼床　炭化物・焼土少量　ＬＢ中量

0　2m

図2　第601号竪穴住居跡（1）



遺物出土状況



Pit1

第1層	暗褐色土	7.5YR3/3	焼土中量
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム・焼土微量
第3層	褐色土	10YR4/4	ローム中量
第4層	褐色土	10YR4/6	ローム中量

Pit2

第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土・ローム微量
第2層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物・焼土・ローム微量
第3層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・焼土・ローム微量
第4層	褐色土	10YR4/4	炭化物・焼土・ローム少量
第5層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・焼土少量

Pit3

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量
第2層	褐色土	10YR4/4	ローム微量
第3層	にぶい黄褐土	10YR4/3	ローム少量

Pit4

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量
第2層	褐色土	10YR4/4	ローム少量
第3層	暗褐色土	10YR3/4	ローム少量

Pit6

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量
第2層	褐色土	10YR4/4	LB多量

Pit7

第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物微量　ローム少量
第2層	灰黄褐色土	10YR4/2	炭化物微量　ローム少量

Pit8

第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・焼土少量
第2層	褐色土	7.5YR4/6	炭化物・焼土少量
第3層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土少量
第4層	褐色土	7.5YR4/4	焼土少量

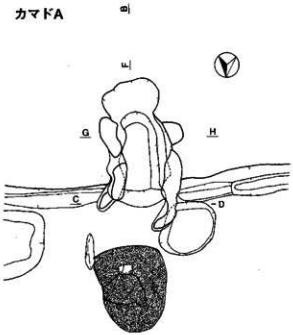
Pit9

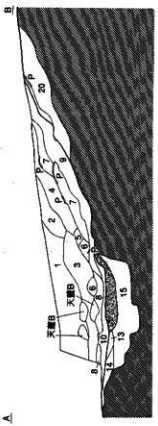
第1層	暗褐色土	10YR3/4	非常に堅い　炭化物・焼土・ローム中量
第2層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物・焼土・ローム少量

0　2m

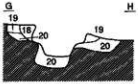
図3　第601号竪穴住居跡（2）

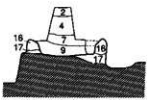
カマドA





カマドA遺物出土状況



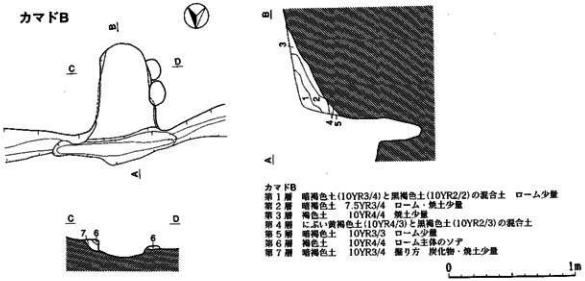


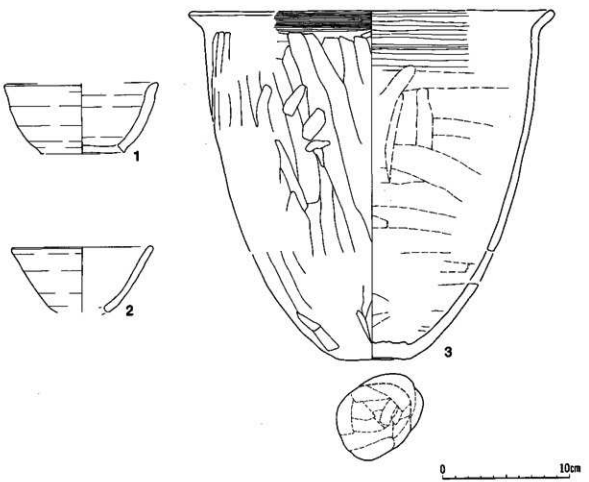
カマドA

第1層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物・焼土少量
第2層　暗褐色土　10YR3/4　ローム微量
第3層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物・焼土・ローム少量
第4層　褐色土　7.5YR4/4　天蓋の崩落土　焼土ブロック少量
第5層　暗褐色土　10YR3/3　ローム微量
第6層　褐色土　7.5YR4/6
第7層　明赤褐色土　2.5YR3/4　天蓋の崩落土
第8層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物・焼土少量
第9層　黒褐褐色土　7.5YR2/3　天蓋の崩落土　砕合む　焼土中量
第10層　暗褐色土　7.5YR3/4　焼土中量
第11層　暗褐色土　10YR3/4　焼ヅ方　上面が被熱
第12層　赤褐色土　5YR4/8　火床面　ロームを焼ったもの
第13層　黒褐褐色土　7.5YR2/3　炭化物少量
第14層　褐色土　10YR4/4　敷床　炭化物・焼土微量
第15層　にぶい黄褐土(10YR4/3)と暗褐色土(10YR3/4)の混合土
Pit1覆土　焼土・ローム少量
第16層　明褐色土　7.5YR5/8　ソデ
第17層　褐色土　10YR4/4　周溝覆土　炭化物・ローム少量
第18層　褐色土(10YR4/4)と暗褐色土(10YR3/3)の混合土
ローム主体のソデ　焼土微量
第19層　黒褐色土(10YR3/2)と褐色土(10YR4/4)の混合土
焼ヅ方　焼土・LB少量
第20層　褐色土　10YR4/4　焼ヅ方　黒褐色土(7.5YR3/2)少量　炭化物・ローム微量

0　1m

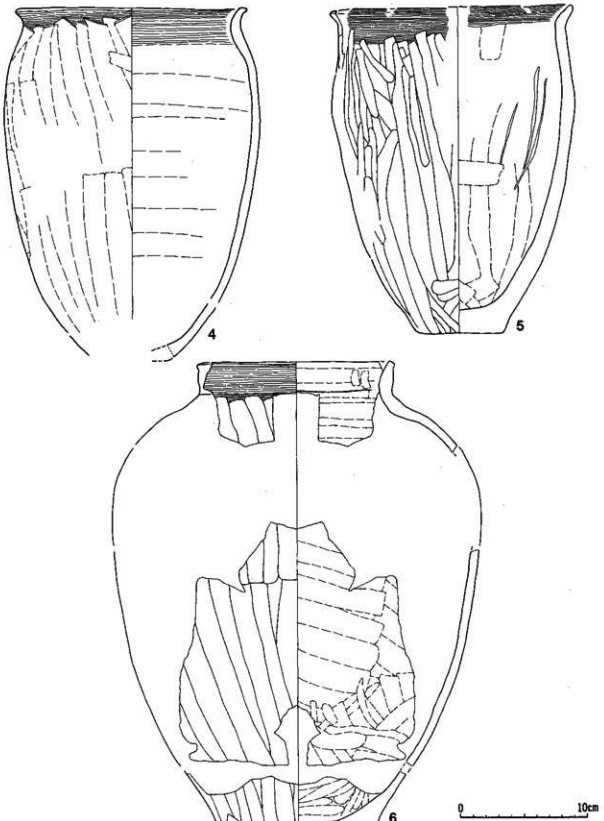
図4　第601号竪穴住居跡（3）





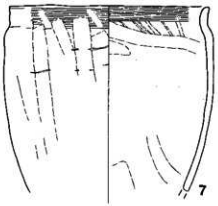
図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	焼り方	(12.8)	5.5	(6.4)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り?	BⅡ	
2	土師器	坏	ピット2 (焼り方)	(11.2)	(5.2)	—	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	—	BⅡ	
3	土師器	甕	ピット4 (焼り方)	(29.2)	27.5	(5.6~7.2)	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	AⅠe	P.39, 60, 62, 66, 67, 69, 70, 71, 74

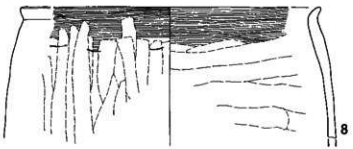
図5 第601号竪穴住居跡（4）・出土遺物（1）

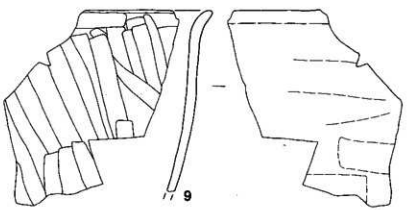


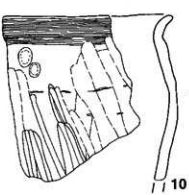
図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
4	土師器	甕	カマドカルド ケヤ[illegible] ケヤ[illegible] ケヤ[illegible] 覆土	18.4	(27.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	—	A1d	P-2, 4, 5, 48.
5	土師器	甕	覆土	(19.4)	26.0	(7.0)	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデ?	A1e	内面ヘラ痕, P-17, 31
6	土師器	広口壺	ケヤ[illegible] ケヤ[illegible] 覆土	(15.8)	(推定37.0)	(12.6)	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラナデ	ユビナデ	ヘラナデ	A1d	内面輪積痕, P-10

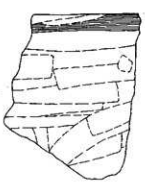
図6　第601号竪穴住居跡　出土遺物（2）

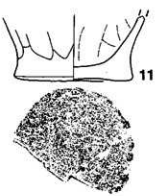








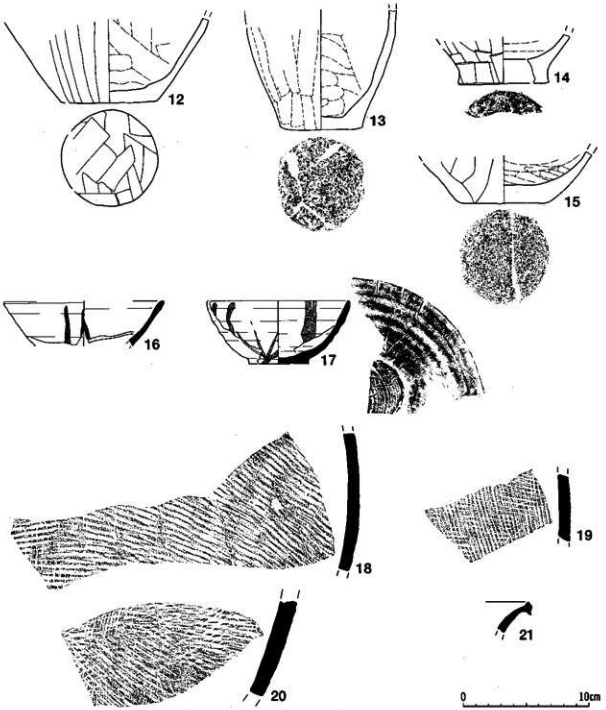




0 10cm

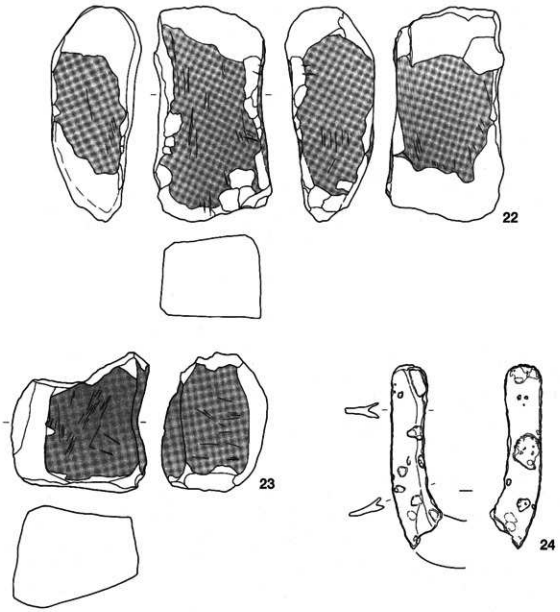
図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
7	土師器	甕	カマドB フクエ	(15.8)	(14.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕、全体に風化
8	土師器	甕	南東	(24.0)	(10.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕、P-3、8
9	土師器	鍋	ピット3クフエ ピット3クフエ	—	(14.4)	—	ヨコナデ?	ヘラケズリ	—	ヨコナデ?	ヘラナデ	—	—	—	
10	土師器	甕	カマドA	—	(13.0)	—	ヨコナデ	指ナデ 中位ヘラ削り 上ヨコナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	指アト、輪積痕、P-51
11	土師器	甕	カマドA 火所最上	—	5.2	(9.4)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ナデ	砂底	A	支脚

図7 第601号竪穴住居跡 出土遺物（3）



図版番号	種	類	器	種	出土位置	計測値（cm） 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
12	土師器	素			カマド内フク土 カマド内床面	—	(6.6)	7.6	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	A	P-49-50
13	土師器	素			南側 カマド内フク土	—	(9.6)	6.6	—	—	ヘラナデ	—	—	ユビナデ	砂底	A	P-18-28
14	土師器	素			ピット内フク土	—	(3.8)	(7.4)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ユビナデ	—	A	柱状高台
15	土師器	素			西側一カマド内 (ハの字状フク)	—	(4.4)	(7.2)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-27
16	須恵器	坏			フク土	(12.8)	(3.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	火ダスキ痕
17	須恵器	坏			東部フク土	(11.4)	5.0	(4.8)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	—	ヘラ書き・火ダスキ痕・P-26
18	須恵器	素			ピット内東側 フク土	—	(10.8)	—	—	—	タタキ目	—	—	ナデ	—	—	P-59
19	須恵器	甕			カマドA 東側	—	(5.2)	—	—	—	タタキ目	—	—	ヘラナデ	—	—	P-55
20	須恵器	甕			床直	—	(8.0)	—	—	—	タタキ目	—	—	ナデ	—	—	P-16-21
21	須恵器	蓋			フク土	—	(推定2.4)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図8　第601号竪穴住居跡　出土遺物（4）



図版番号	出土層位	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重さ(g)	石質	分類	整理番号	備考
22	床面	17.1	9.4	7.1	1342.4	凝灰岩	砥石		
23	床面	11.0	11.0	8.4	1019.6	凝灰岩	砥石		

図版番号	出土層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	種類	整理番号	備考
24	周溝フク土	14.5	4.1	1.3	61.2	鹿(鹿)角	1	F-1

図9 第601号竪穴住居跡 出土遺物（5）

れていた上師器甕が潰れた可能性がある。図8－17は刻書された須恵器坏である。覆土から総重量158.9ｇの鉄滓片も出土した。

［時　期］　住居及びカマドの構造や出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

（神　　康　夫）

第602号竪穴住居跡（図10・11）

［位　置］　ＭＬ・ＭＭ－465・466に位置する。

［重　複］　認められなかった。

［平面形・規模］　西壁と、北壁及び南壁の西半は地形的に斜面下方にあたるため、遺存していない。東壁は3ｍ55㎝で、（西壁3ｍ50㎝）、（南壁4ｍ03㎝）、（北壁3ｍ22㎝）ほどの規模で、方形を呈するものと思われる。床面積は推定（10.72㎡）で、主軸方位はＮ－98°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁23～27㎝、南壁0～26㎝、北壁0～23㎝で、西壁は遺存していない。斜面下方を中心に、大半の床面には貼床を施して整えているが、多少の凹凸がみられる。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　壁際に深さ21～32㎝のピットが8個検出され、これらが壁柱穴になるものと思われる。

［カマド］　西壁南側に構築されている。半地下式カマドで、80㎝ほど住居跡外に延びる。火床面はやや掘り窪められて、地山を火床面として使用している。火床面の手前には、幅120㎝、長さ80㎝の円形の範囲で6㎝ほど落ち込んでいる。堆積土中に天蓋の崩落土がブロック状に底面から浮いた状態で多量に混入していることから、天井部が使用時の状態で廃棄され、埋没過程において崩落したものと思われる。煙道部の側壁部分では掘り方を有している。

［堆積土］　堆積土は8層に分層され、火山灰は含んでいなかった。貼床は2層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土師器甕・小甕、須恵器甕が出土している。カマド覆土（2層上面）からは、鉄製鎌先が2つにおれ、重なった状態で出土した。

［時　期］　住居及びカマドの構造や出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

（神　　康　夫）

第603号竪穴住居跡（図12・13）

［位　置］　ＭＬ・ＭＭ－463・464に位置する。

［重　複］　認められなかった。

［平面形・規模］　東壁3ｍ53㎝、西壁3ｍ48㎝、南壁3ｍ53㎝、北壁3ｍ50㎝の規模で、方形を呈している。床面積は10.91㎡、主軸方位はＮ－179°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁70～80㎝、西壁24～58㎝、南壁19～24㎝、北壁35～75㎝である。地山を床面として使用しており、ほぼ平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　ピットが10個検出されたが、いずれも浅いため柱穴とはなり得ない。

［カマド］　南壁東側に構築されている。地下式カマドで、1ｍ40㎝ほど住居跡外に延びる。火床面は掘り込まれておらず、地山を火床面としている。袖部は、地山を掘り残して構築されており、部分

的に遺存している。煙道は遺存状態が良好で、天井部や煙出部の地山の壁が、被熱によって赤色化している。

［その他の施設］　カマドの西側には長軸58cm、短軸52cmのほぼ円形で深さ36cmのピットが検出された。長軸の断面形態はフラスコ状を呈しており、東側は壁へ入り込んでオーバーハングしている。

［堆積土］　堆積土は13層に分層され、暗褐色土を主体としている。火山灰は含まれていない。

［出土遺物］　住居覆土から土師器甕、須恵器鉢が出土した。図13－2の須恵器甕片は、ピット2覆土と、第601号竪穴住居跡の覆土及び掘り方から出土した破片が接合したものである。カマド付近からやや密に遺物が出土したが、接合しなかった。また、覆土から重量60.3ｇの鉄滓片も出土した。

［時　期］　住居及びカマドの構造や出土遺物から、９世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（神　康　夫）

第604号竪穴住居跡（図14～16）

［位　置］　ＭＫ・ＭＬ－459・460に位置する。

［重　複］　認められなかった。

［平面形・規模］　東壁４ｍ80cm、西壁４ｍ75cm、南壁４ｍ50cm、北壁４ｍ82cmで、方形を呈している。床面積は21.0㎡である。また、主軸方位はＮ－77°－Ｅである。

［壁・床面］　斜面下方にある北西側は壁が低くなっている。壁高は、東壁49～56cm、西壁15～23cm、南壁32～56cm、北壁11～36cmである。地山を床面として使用しており、平坦である。

［周　溝］　幅13～22cm、深さ６～14cmの周溝が部分的に検出された。

［ピット］　10個検出された。ピット２・７が主柱穴になる可能性がある。ピット９・10なども位置的には柱穴となる可能性があるが、深さが18cm、14cmと浅く、主柱穴ではないものと思われる。

［カマド］　東壁北側に構築されている。地下式カマドで、１ｍ30cmほど住居跡外に延びる。地山をそのまま火床面として使用しており、袖部はロームと暗褐色土で構築している。

［その他の施設］　南東隅に方形のピット１があり、85×70cmの長方形を呈し、深さは50cmである。断面形は「コ」字形を呈し、壁は垂直に立ち上がっている。

［堆積土］　堆積土は20層に分層され、暗褐色土を主体としている。火山灰は含まれていない。

［出土遺物］　土師器甕・須恵器坏が出土した。カマド付近からやや密に遺物が出土したが、細片が多くあまり接合しなかった。覆土から総重量526.5ｇの鉄滓片も出土した。

［時　期］　住居及びカマドの構造や出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

（神　康　夫）

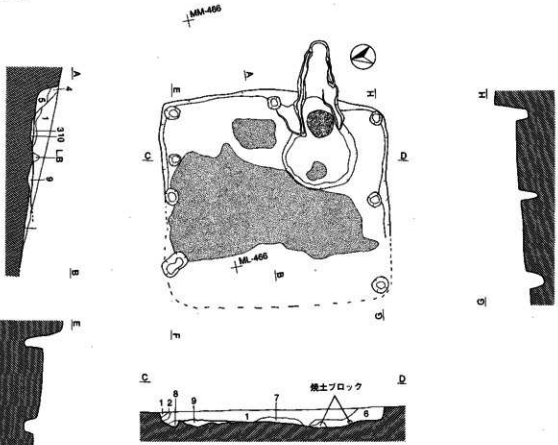
第605号竪穴住居跡（図17～19）

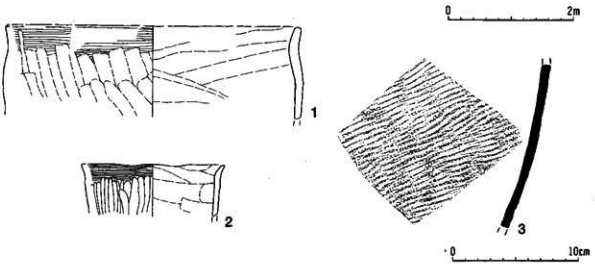
［位　置］　ＭＩ・ＭＪ－457・458に位置する。

［重　複］　認められなかった。

［平面形・規模］　東壁４ｍ96cm、西壁４ｍ96cm、南壁４ｍ75cm、北壁４ｍ73cmの方形を呈している。床面積は22.45㎡、主軸方位はＮ－72°－Ｅである。

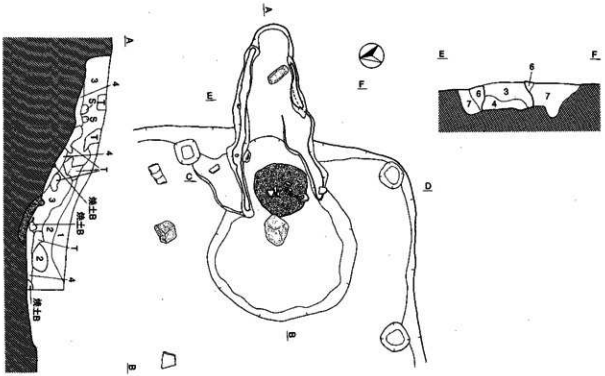
［壁・床面］　壁高は、東壁77～86cm、西壁15～23cm、南壁29～88cm、北壁32～64cmである。床面は





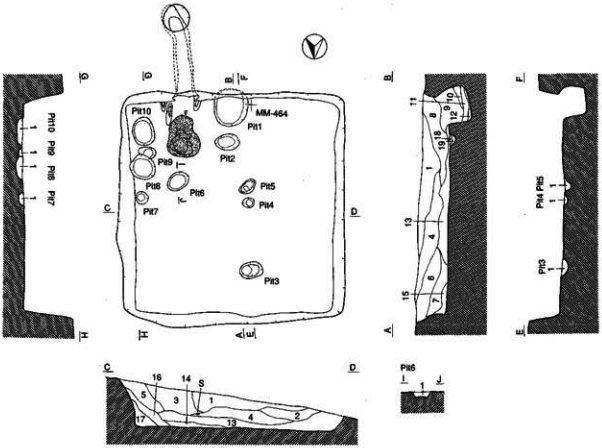
図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	フク土	(23.6)	(7.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-6
2	土師器	小甕	フク土	(11.4)	(4.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-2
3	黒曜器	斧	フク土	—	(13.3)	—	—	—	タタキ目	—	—	ナデ	—	—	P-5

図10 第602号竪穴住居跡（1）・出土遺物（1）



図版番号	出土層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	種 類	整理番号	備 考
4	カマド2層	2.3	12.1	0.9	30.5	鏃先	2	2つに折れ、重なっているF-1

図11 第602号竪穴住居跡（2）・出土遺物（2）



第603号竪穴住居跡

第１層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物微量　ローム少量
第２層　暗褐色土(10YR3/3)と暗褐色土(10YR3/4)の混合土　炭化物微量
第３層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物・焼土微量　ローム少量
第４層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物・ローム微量
第５層　暗褐色土(10YR3/4)とにぶい黄褐色土(10YR4/3)の混合土　炭化物微量
第６層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物微量
第７層　暗褐色土　10YR3/3　褐色土(10YR4/4)　微量
第８層　暗褐色土　10YR3/3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)少量　炭化物・焼土微量
第９層　暗褐色土(10YR3/3)とにぶい黄褐色土(10YR4/3)の混合土　Pit1覆土　焼土微量
第10層　黒褐色土　10YR2/3　Pit1覆土
第11層　暗褐色土　10YR3/3　Pit1覆土　焼土微量
第12層　明褐色土　7.5YR5/6　Pit1覆土　焼土・炭化微量
第13層　暗褐色土(10YR3/3)と明褐色土(7.5YR5/6)の混合土
第14層　黒褐色土　10YR2/3　明褐色土(7.5YR5/6)微量
第15層　明褐色土　7.5YR5/6
第16層　黒褐色土　10YR2/2　明褐色土(10YR5/6)・炭化物微量
第17層　黒褐色土(10YR3/2)と褐色土(10YR4/4)の混合土
第18層　褐色土　7.5YR4/4　Pit2覆土　炭化物微量　焼土少量
第19層　褐色土　7.5YR4/6　Pit2覆土　焼土少量

Pit3
第１層　褐色土　7.5YR4/3

Pit4
第１層　褐色土　7.5YR4/3　炭化物少量

Pit5
第１層　明褐色土　7.5YR5/6　炭化物・焼土微量

Pit6
第１層　暗褐色土　7.5YR3/4　炭化物微量　焼土中量

Pit7
第１層　明褐色土　7.5YR5/6　炭化物微量

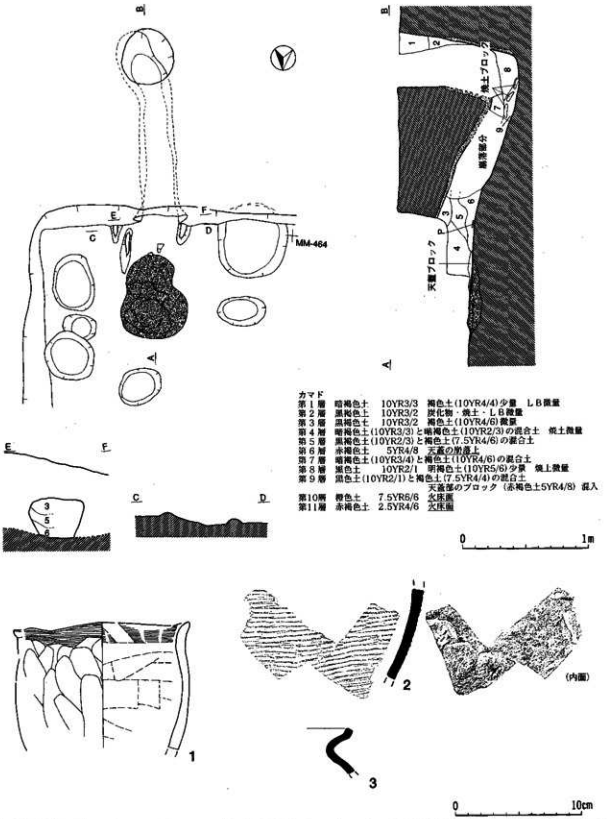
Pit8
第１層　褐色土　7.5YR4/6　焼土少量

Pit9
第１層　褐色土　7.5YR4/4　炭化物微量　焼土少量

Pit10
第１層　明褐色土　7.5YR5/6　炭化物微量　焼土少量

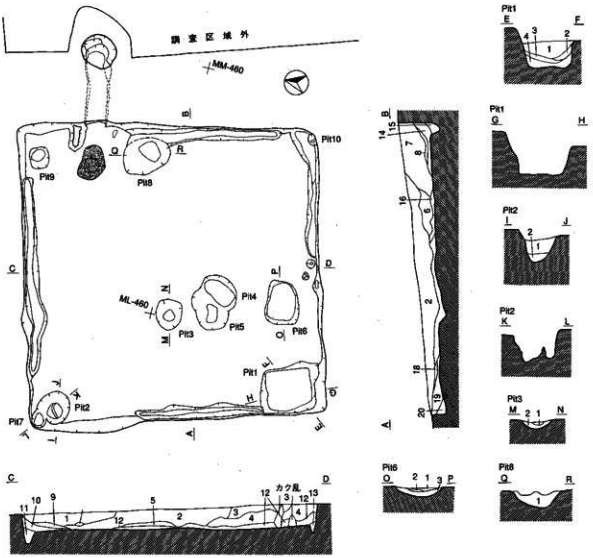
0　2m

図12　第603号竪穴住居跡（１）



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	フク土	14.0	(10.1)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
2	須恵器	甕	ピットフクト(掘形フク土)	—	(7.4)	—	—	—	タタキ目	—	—	あて具痕	—	—	
3	須恵器	鉢	フク土	—	(復定3.6)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図13 第603号竪穴住居跡(2)・出土遺物



第604号竪穴住居跡

第1層　暗褐色土　10YR3/4　褐色土(10YR4/4)少量　炭化物・浮石微量
第2層　暗褐色土　10YR3/3　褐色土(10YR4/4)少量　炭化物微量　粘土混入
第3層　暗褐色土　10YR3/4　褐色土(10YR4/4)少量　炭化物微量
第4層　暗褐色土　7.5YR3/4　褐色土(7.5YR4/4)中量　炭化物微量
第5層　褐色土　10YR4/4　褐色土(7.5YR4/6)中量
第6層　暗褐色土　10YR3/4　褐色土(10YR4/4)少量　炭化物微量
第7層　暗褐色土　10YR3/3　褐色土(10YR4/4)少量　炭化物微量
第8層　暗褐色土　10YR3/4　黒褐色土(10YR2/3)少量
第9層　黒褐色土　10YR2/3　黒色土(10YR1.7/1)少量
第10層　暗褐色土　10YR3/3　褐色土(10YR4/4)少量　炭化物微量
第11層　褐色土　10YR4/4　<u>焼土層</u>　炭化物微量
第12層　黒褐色土(7.5YR3/2)と暗褐色土(10YR3/3)の混合土　炭化物微量
第13層　暗褐色土　7.5YR3/4　<u>焼土層</u>
第14層　暗褐色土　10YR3/3　褐色土(10YR4/4)少量
第15層　暗褐色土　10YR3/4　<u>焼土層</u>
第16層　暗褐色土(10YR3/3)と褐色土(10YR4/4)の混合土　炭化物微量
第17層　黒褐色土　7.5YR3/2　褐色土(10YR4/4)少量　炭化物微量
第18層　黒褐色土(10YR2/3)と暗褐色土(10YR3/3)の混合土　炭化物少量
第19層　暗褐色土　10YR3/4　褐色土(10YR4/4)少量　炭化物微量
第20層　暗褐色土　10YR3/3

Pit1
第1層　暗褐色土　10YR3/3　暗褐色土(7.5YR3/4)少量　炭化物微量
第2層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物微量
第3層　褐色土(10YR3/4)と黒褐色土(10YR2/3)の混合土　炭化物微量
第4層　褐色土　10YR4/4　炭化物微量

Pit2
第1層　暗褐色土(10YR3/3)と褐色土(10YR4/4)の混合土　炭化物・焼土・ローム微量
第2層　褐色土　10YR4/4

Pit3
第1層　褐色土　7.5YR4/4
第2層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物微量

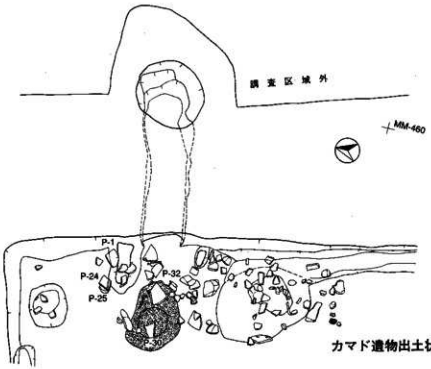
Pit6
第1層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物微量
第2層　褐色土　10YR4/6　炭化物微量
第3層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物微量

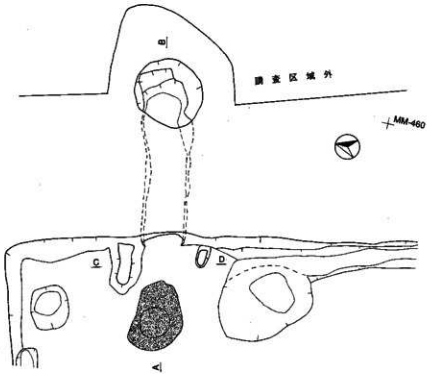
Pit7
第1層　暗褐色土　7.5YR3/4　炭化物・浮石微量

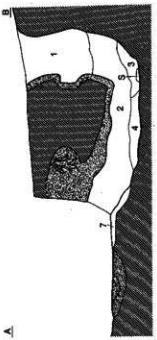
Pit8
第1層　暗褐色土　7.5YR3/4　炭化物微量

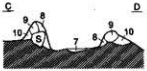
0　2m

図14　第604号竪穴住居跡（1）





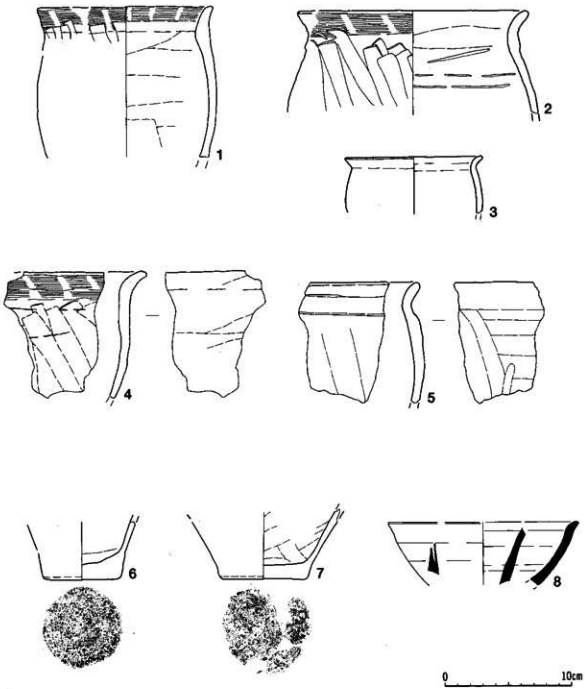




カマド
第1層 暗褐色土 10YR3/3 褐色土(10YR4/6)少量 暗赤褐色土(2.5YR3/6)微量
第2層 暗褐色土(10YR3/4)と褐色土(10YR4/4)の混合土
第3層 黒色土 10YR1.7/1
第4層 黒褐色土 10YR2/3
第5層 暗赤褐色土 5YR3/6 火床面
第6層 暗赤褐色土 2.5YR3/6 火床面
第7層 褐色土 7.5YR4/6 焼ヨリ 焼土混入
第8層 暗褐色土 7.5YR3/6 被熱しているソデ
第9層 暗赤褐色土 5YR3/6 ソデ
第10層 暗褐色土 7.5YR3/4 ソデ

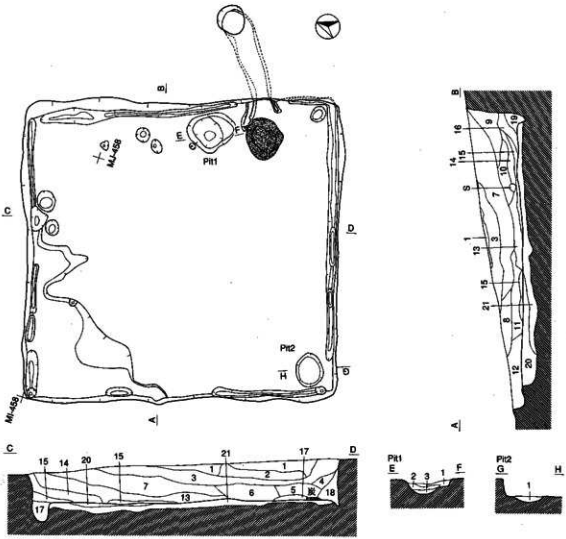
0 1m

図15 第604号竪穴住居跡（2）



図版番号	器種	類別	種別	出土位置	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	頸部・フクタ土		14.0	(12.0)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面火バネ・P-1
2	土師器	甕	カマド/フクタ土		(18.4)	(8.2)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ナデ	ナデ	—	—	A	内面沈線状工具痕・P-32
3	土師器	甕	ピット/フクタ土		(10.8)	(4.5)	—	(不明)	(不明)	—	(不明)	(不明)	—	—	A?	全体風化
4	土師器	甕	カマド覆土		—	(10.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ナデ?	ヘラナデ?	—	—	A	風化・黒斑痕・P-30
5	土師器	甕	カマド覆土		—	(9.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ナデ	—	—	A	P-24
6	土師器	甕	カマド覆土		—	(4.6)	6.4	—	—	(不明)	—	—	ユビナデ	砂底	A	風化・P-25
7	土師器	甕	頸部・フクタ土		—	(5.9)	7.0	—	—	ヘラナデ?	—	→	ナデ	ヘラナデ?	A	風化・黒斑・P-4
8	須恵器	坏	フク土		(15.2)	5.0	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	火ダスキ痕

図16　第604号竪穴住居跡　出土遺物



第605号竪穴住居跡

第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・焼土微量	
第2層	にぶい褐色土	10YR4/3	炭化物・焼土微量	LB少量
第3層	褐色土	10YR4/4	炭化物・灰？微状	LB少量
第4層	褐色土	7.5YR4/3	LB微量	
第5層	暗褐色土	7.5YR3/3	炭化物少量	
第6層	にぶい褐色土	10YR4/3	LB微量	
第7層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・焼土微量	LB少量
第8層	にぶい褐色土	10YR4/3	炭化物・灰？微量	
第9層	暗褐色土	10YR3/3	黒褐色土(7.5YR3/2)・炭化物・焼土微量	
第10層	にぶい褐色土	10YR4/3	黒褐色土(7.5YR3/2)微量	炭化物少量
第11層	にぶい褐色土	10YR4/3	炭化物微量	LB少量
第12層	褐色土	10YR4/4	炭化物・焼土微量	
第13層	褐色土	7.5YR4/4	炭化物少量 焼土微量	LB少量
第14層	にぶい褐色土	10YR5/4	炭化物・焼土粒少量	
第15層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物・焼土少量	
第16層	にぶい褐色土	10YR4/3	炭化物・LB少量	
第17層	暗褐色土	10YR3/4	ローム少量	
第18層	にぶい褐色土	10YR4/3	LB主体層	
第19層	にぶい褐色土	10YR5/4		
第20層	暗褐色土	7.5YR3/4	貼床	炭化物少量
第21層	褐色土	7.5YR4/6	貼床	明褐色土(7.5YR4/6)少量 炭化物微量

Pit1

第1層	褐色土	10YR4/6	炭化物・焼土微量
第2層	褐色土	7.5YR4/6	炭化物・焼土微量
第3層	褐色土	10YR3/4	炭化物・焼土微量

Pit2

第1層	褐色土	10YR4/4	炭化物微量

0 2m

図17 第605号竪穴住居跡（1）

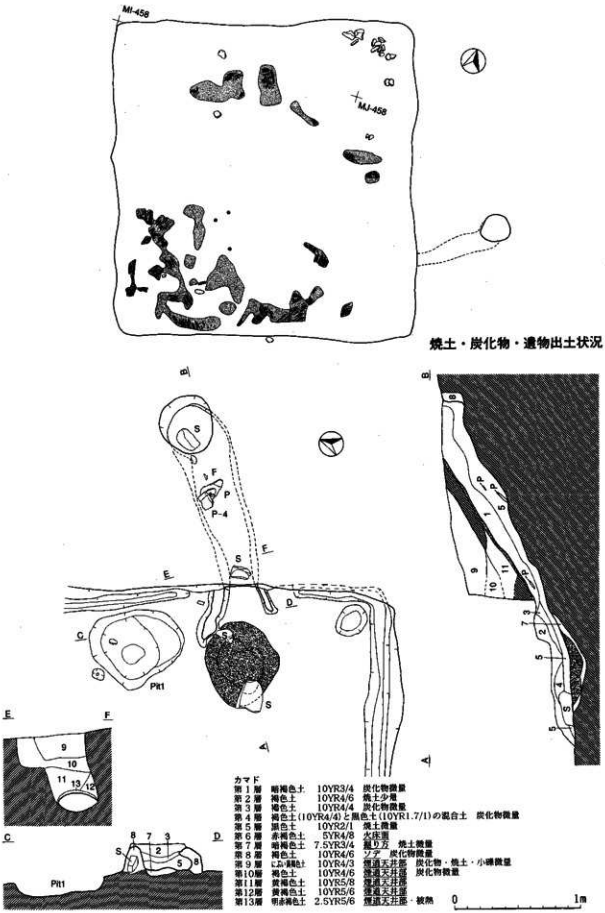
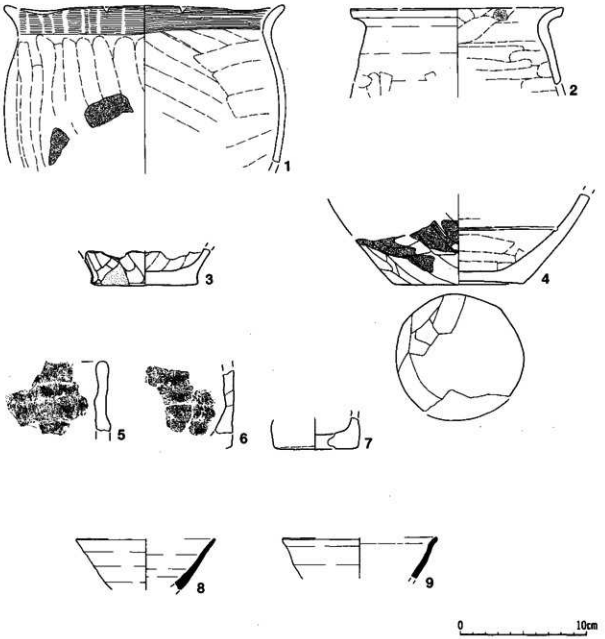


図18 第605号竪穴住居跡（2）



図版番号	機	器	種	出土位置	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分	類	備 考
					口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	甕		カマド焚口 カマドフタ	22.4	(12.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A		外面化粧粘土-P-45
2	土師器	甕		フク土	(17.0)	(7.1)	—	ロクロ	ロクロ・ヘラナデ	—	ユビナデ	ユビナデ	—	—	B		内面ユビアト
3	土師器	甕		フク土	—	(2.7)	8.4	—	—	ヘラケズリ	—	—	ユビナデ	ヘラナデ	A		
4	土師器	甕		カマド焚口 カマドフタ	—	(7.1)	10.2	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	A		化粧粘のものもあり P-12
5	土師器	甕		フク土	—	(5.5)	—	オサエ・ナデ	オサエ・ナデ	—	オサエ・ナデ	オサエ・ナデ	—	—	A		輪積痕
6	土師器	甕		フク土	—	(5.0)	—	—	—	オサエ・ナデ	—	—	オサエ・ナデ	—	A		輪積痕 同一個体
7	土師器	甕		フク土	—	(2.5)	(6.6)	—	—	ナデ	—	—	ナデ	ナデ	A		
8	須恵器	坏		フク土	(11.0)	(5.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—		
9	須恵器	坏		フク土 カマド・フタ	(12.4)	(3.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—		

図19 第605号竪穴住居跡 出土遺物

全面的に貼床を施しており、平坦に整えられている。

［周　溝］　幅８～15cm、深さ５～14cmの周溝が、断続的ではあるがほぼ全周する状況で検出された。

［ピット］　ピットが９個検出されたが、いずれも柱穴とはならない。

［カマド］　東壁南側に構築された半地下式カマドで、150cmほど住居跡外に延びる。平面的には壁から直角に煙道が出ておらず、北東方向へ15度ほど傾いた状態で突き出している。調査当初は地下式カマドと思われたが、煙道上部の掘り方から土師器甕底部（図19－４）が出土したことから、半地下式のカマドであることが判明した。袖部は褐色ロームで構築され、北側の袖には芯材として礫が用いられている。火床面は皿状の掘り方を有し、その上面で火を焚き火床面としている。

［その他の施設］　カマドの北側には76×62cm、深さ22cmの不整な楕円形を呈するピットが検出されている。位置的に、カマドとの関連が想定される。

［堆積土］　堆積土は19層に分層され、第３層及び第８層には灰のようなものが混入している。本住居跡は焼失家屋であり、床面あるいは床面直上には焼土や藁状の炭化物が混入している。

［出土遺物］　土師器甕、須恵器・坏が出土している。図19－５～７は輪積痕が明瞭に残る、同一個体の手づくね土師器である。図19－９の須恵器坏は、本住居跡覆土と第606号竪穴住居跡覆土から出土した破片が接合したものである。また、図示していないが、北東隅の床面から礫がまとまった状態で出土している。覆土及び掘り方から総重量3471.4ｇの鉄滓片、覆土から羽口の破片も出土した。

［時　期］　住居及びカマドの構造や出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

（神　康　夫）

第606号竪穴住居跡（図20～22）

［位　置］　ＭＨ・ＭＩ－455・456に位置する。

［重　複］　第607号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

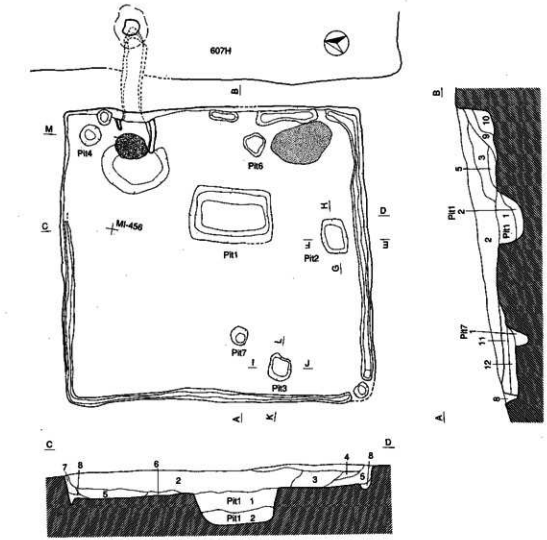
［平面形・規模］　東壁４ｍ72cm、西壁４ｍ85cm、南壁４ｍ65cm、北壁４ｍ61cmの方形を呈している。床面積は21.62㎡、主軸方位はＮ－78°－Ｅである。

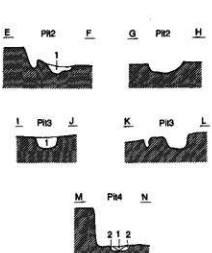
［壁・床面］　壁高は、東壁56～67cm、西壁４～６cm、南壁６～47cm、北壁６～67cmである。斜面下方にある西側は貼床を施しているが、大半は地山面をそのまま床面として使用し、全体として平坦な床である。

［周　溝］　カマドのある北東隅付近には検出されなかったが、それ以外では幅10～16cm、深さ４～23cmの周溝が巡っている。

［ピット］　ピットが８個検出されたが、明確な主柱穴は確認できなかった。

［カマド］　東壁北側に構築され、１ｍ50cmほど住居跡外に延びる。地下式カマドと思われるが、精査中に幾度となく崩落したため不明な点が多い。確認面から煙道底面までの深さは１ｍ50cm前後とかなり深い煙道を持っている。煙道の横穴と煙出しの縦穴を別々に掘ったようで、横穴が縦穴の下部まで掘り込まれている。煙道自体の幅が35cm程度で奥へ１ｍ70cm掘っているので、燃焼部に近い煙道上部を一旦掘り崩して煙道横穴を掘り、その後煙出部の縦穴を掘ったものと思われる。最後に燃焼部に近い煙道横穴の天井部分に地山の土を貼ってカマドを構築した、という方法が考えられる。火床面は掘り方を持たず、地山面をそのまま火床面として使用している。火床面の手前、幅103cm、奥行き60





第606号竪穴住居跡
第1層 褐色土 7.5YR4/4 炭化物微量
第2層 褐色土 7.5YR4/4 炭化物微量
第3層 褐色土 7.5YR4/4 炭化物・LB少量
第4層 褐色土 7.5YR4/4 明赤褐色土(5YR5/8)・ローム微量
第5層 褐色土 7.5YR4/4 炭化物微量 LB少量
第6層 褐色土 7.5YR4/4 炭化物微量
第7層 褐色土 7.5YR4/4 LB微量
第8層 褐色土 7.5YR4/6 焼原第4
第9層 褐色土 7.5YR4/4 炭化物・B-Tm?微量
第10層 褐色土 7.5YR4/4 炭化物・LB微量
第11層 明褐色土 7.5YR5/6 掘り方 灰色土(5Y8/6)微量
第12層 黄褐色土 10YR5/6 掘り方 灰色土(5Y8/6)微量

Pit1
第1層 褐色土 7.5YR4/4 炭化物・LB少量
第2層 褐色土 7.5YR4/4 LB中量

Pit7
第1層 褐色土 7.5YR4/5 灰色土(5Y8/6)微量

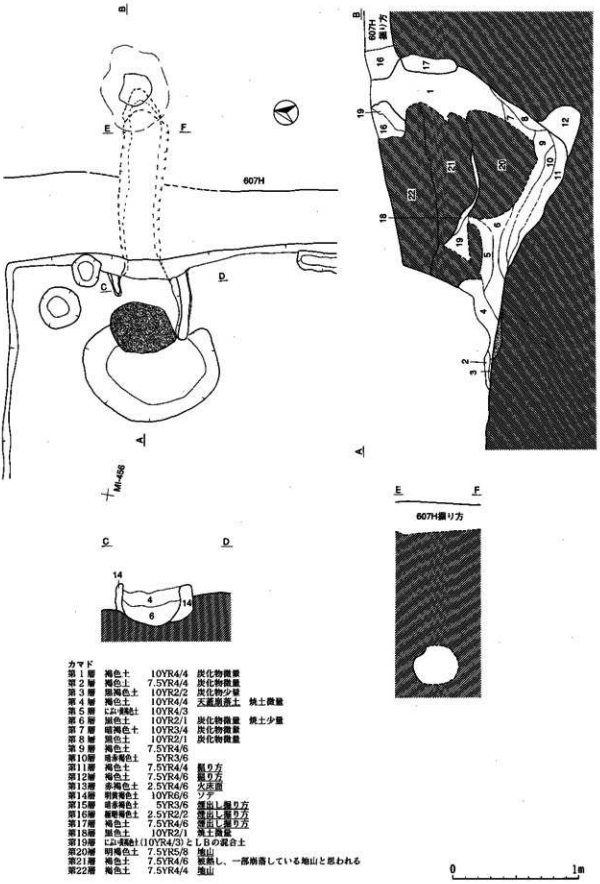
Pit2
第1層 赤褐色土 5Y4/6 灰白色土(10YR7/1)微量 炭化物少量 焼土中量

Pit3
第1層 褐色土 7.5YR4/6 黒褐色土(10YR2/2)微量

Pit4
第1層 褐色土(7.5YR4/4)と黒色土(10YR2/1)の混合土 焼土微量
第2層 褐色土 7.5YR4/6

0 2m

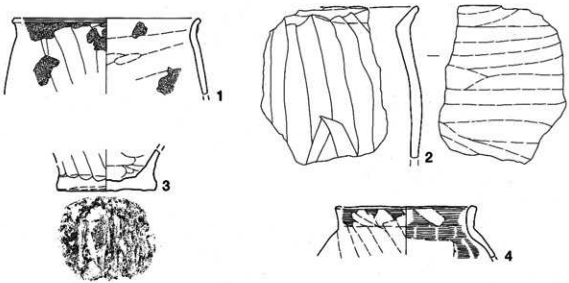
図20 第606号竪穴住居跡（1）



カマド

第１層	褐色土	10YR4/4	炭化物微量
第２層	褐色土	7.5YR4/4	炭化物微量
第３層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物少量
第４層	褐色土	10YR4/4	天井崩落土　焼土微量
第５層	にぶい褐色土	10YR4/3	
第６層	黒色土	10YR2/1	炭化物微量　焼土少量
第７層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物微量
第８層	黒色土	10YR2/1	炭化物微量
第９層	褐色土	7.5YR4/6	
第10層	暗赤褐色土	5YR3/6	
第11層	褐色土	7.5YR4/4	掘り方
第12層	褐色土	7.5YR4/6	掘り方
第13層	赤褐色土	2.5YR4/6	火床面
第14層	明黄褐色土	10YR6/6	ブデ
第15層	暗赤褐色土	5YR3/6	張出し掘り方
第16層	暗褐褐色土	2.5YR2/2	張出し掘り方
第17層	褐色土	7.5YR4/6	張出し掘り方
第18層	黒色土	10YR2/1	焼土微量
第19層	にぶい褐色土	(10YR4/3)としBの混合土	
第20層	明褐色土	7.5YR5/8	地山
第21層	褐色土	7.5YR4/6	被熱し、一部崩落している地山と思われる
第22層	褐色土	7.5YR4/4	地山

図21　第606号竪穴住居跡（２）



0 10cm

図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	カマド フクド	(15.0)	(6.1)	—	ロクロ	ヘラケズリ	—	ロクロ	ヘラナデ	—	—	A	P-1
2	土師器	甕	フクド フクド	—	(12.5)	—	オサエ	ヘラケズリ	—	ユビナデ	ユビナデ	—	—	A	
3	土師器	甕	カマド 構築フクド	—	(3.3)	7.8	—	—	ヘラケズリ	—	—	ユビナデ	ヘラケズリ	A	
4	土師器	広口壺	フクド 構築ピット内	11.2	(4.2)	—	ヨコナデ ヘラナデ	ヘラナデ	—	ナデ	ヘラナデ	—	—	A	

図22 第606号竪穴住居跡 出土遺物

cmほどの楕円形の範囲が、床面の高さから4cmほど窪んでおり、カマドの使用に伴って落ち込んだものと思われる。袖部は粘土とロームで構築されている。

［その他の施設］ 中央部やや東寄りに131×87cm、深さ58cmの、平面形が長方形を呈するピットが検出された。位置的にカマドに近いことから、カマドと何らかの関連が想定される。また、南東隅には床面から30cmほどの高さに、99×60cmの楕円形の範囲で硬化面が検出された。硬化面の北側には直径35cm、深さ7cmの不整円形のピットが検出され、壁際にあることとピットと硬化面が関連があるとすれば、出入り口の可能性が考えられる。

［堆積土］ 堆積土は12層に分層され、第9層にB－Tmらしき火山灰を少量含んでいる。

［出土遺物］ 土師器甕が覆土から出土している。ピット1覆土からは図示していないが須恵器破片が出土している。覆土及びピット1覆土から総重量211.1gの鉄滓片も出土した。

［時 期］ 火山灰の堆積状況や住居及びカマドの構造、出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

（神 康 夫）

第607号竪穴住居跡（図23・24）

［位 置］ MI・MJ－455・456に位置する。

［重 複］ 第606号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

［平面形・規模］ 東壁6m38cm、西壁6m46cm、南壁6m57cm、北壁6m54cmの方形を呈している。床面積は40.79㎡、主軸方位はN－173°－Eである。

［壁・床面］　本住居跡の南東隅部分以外は削平を受けており、壁上部は遺存していない。遺存している壁高は、東壁25～47㎝、西壁１～５㎝、南壁４～45㎝、北壁５～30㎝である。斜面上方の東側は地山を床面とし、斜面下方の西側には貼床を施して平坦に整えている。

［周　溝］　幅７～26㎝、深さ18～28㎝の周溝が一巡する。周溝はカマドの下部にも認められることから、まず周溝が全周するように作られ、カマドを構築した時点で埋め戻したものと考えられる。

［ピット］　ピットが８個検出され、ピット２・５・６・７が主柱穴である。

［カマド］　南壁東側に構築されている。半地下式カマドで、60㎝ほど住居跡外に延びている。東側の袖は遺存していないが、西側の袖は芯材に礫を用いている。火床面は掘り込みを持たず、地山をそのまま火床面として使用し、火床面奥には支脚として用いられたと思われる土師器甕の底部片が倒立状態で出土した。

［堆積土］　堆積土は14層に分層される。

［出土遺物］　土師器坏・甕・小甕、須恵器壺が出土している。覆土及びピット７覆土から、総重量803.9ｇの鉄滓片も出土した。

［時　期］　住居及びカマドの構造や出土遺物から、９世紀後半に構築されたと考えられる。

（神　康　夫）

第608号竪穴住居跡（図25～27）

［位　置］　ＭＫ－453・454に位置する。

［重　複］　第613号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。第613号住居跡と主軸方位が多少ずれるものの、位置的に全く重なった状況であり、本住居跡が改築されたものである可能性がある。

［平面形・規模］　東壁４ｍ30㎝、西壁４ｍ03㎝、南壁４ｍ15㎝、北壁３ｍ90㎝の方形を呈している。床面積は16.61㎡、主軸方位はＮ－175°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁96～100㎝、西壁53～61㎝、南壁74～92㎝、北壁58～92㎝の方形を呈している。床面には多少凹凸があるものの概ね平坦である。また、カマド付近には５～９㎝の段差があり、カマド側が低くなっている。

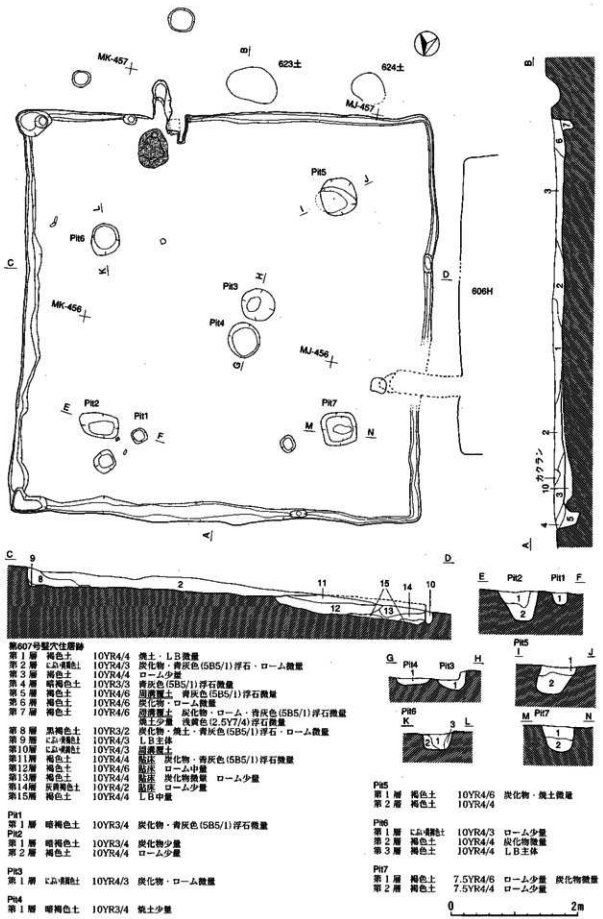
［周　溝］　幅25～35㎝、深さ３～14㎝の周溝が、カマドのある南壁と西壁には部分的に検出され、他ではつながった状態で検出された。

［ピット］　ピットが11個検出され、ピット３が深さ99㎝で主柱穴となる可能性がある他は、明確な主柱穴は見つからなかった。周溝部分にもピット状の落ち込みがあり、壁柱穴となる可能性がある。また、本住居跡は第613号竪穴住居跡と重複していることから、本住居跡で検出されたこれらのピットの一部が第613号竪穴住居跡のピットである可能性もある。

［カマド］　南壁西側に構築されている。半地下式カマドで、80㎝ほど住居跡外に延びる。袖は大半が壊されており、西側の袖部の一部分が検出されたのみである。

［その他の施設］　直径110㎝ほどで深さ17㎝の円形のピットが、中央部やカマド寄りに作られている。

［堆積土］　堆積土は18層に分層される。上部は自然堆積した黒色土及び黒褐色土が堆積し、下半は暗褐色土を主体とした人為堆積と思われる。火山灰等は検出されなかった。床面より10～30㎝の高さ



第607号竪穴住居跡

第1層 褐色土 10YR4/4 焼土・LB微量
第2層 にぶい褐色土 10YR4/3 炭化物・青灰色(5B5/1)浮石・ローム微量
第3層 褐色土 10YR4/4 ローム少量
第4層 暗褐色土 10YR3/3 青灰色(5B5/1)浮石微量
第5層 褐色土 10YR4/6 焼成粗土 青灰色(5B5/1)浮石微量
第6層 褐色土 10YR4/6 炭化物・ローム微量
第7層 褐色土 10YR4/6 焼成粗土 炭化物・ローム・青灰色(5B5/1)浮石微量
黄土少量 浅黄色(2.5Y7/4)浮石微量
第8層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物・焼土・青灰色(5B5/1)浮石・ローム微量
第9層 にぶい褐色土 10YR4/3 LB主体
第10層 にぶい褐色土 10YR4/3 焼成粗土
第11層 褐色土 10YR4/4 貼床 炭化物・青灰色(5B5/1)浮石微量
第12層 褐色土 10YR4/6 貼床 ローム中量
第13層 褐色土 10YR4/4 貼床 炭化物微量 ローム少量
第14層 灰黄褐色土 10YR4/2 貼床 ローム少量
第15層 褐色土 10YR4/4 LB中量

Pit1
第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物・青灰色(5B5/1)浮石微量

Pit2
第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物少量
第2層 褐色土 10YR4/4 ローム少量

Pit3
第1層 にぶい褐色土 10YR4/3 炭化物・ローム微量

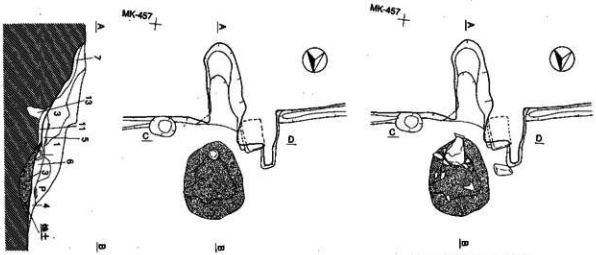
Pit4
第1層 暗褐色土 10YR3/4 焼土少量

Pit5
第1層 褐色土 10YR4/6 炭化物・焼土微量
第2層 褐色土 10YR4/4

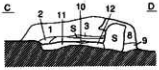
Pit6
第1層 にぶい褐色土 10YR4/3 ローム少量
第2層 褐色土 10YR4/4 炭化物微量
第3層 褐色土 10YR4/4 LB主体

Pit7
第1層 褐色土 7.5YR4/6 ローム少量 炭化物微量
第2層 褐色土 7.5YR4/4 ローム少量

図23 第607号竪穴住居跡（1）

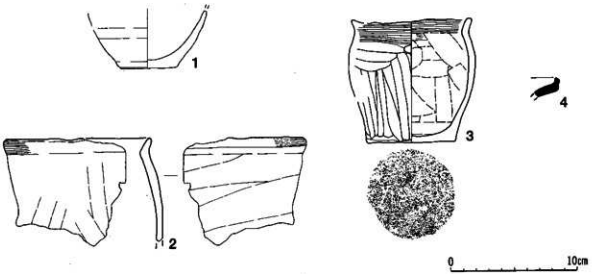


カマド遺物出土状況



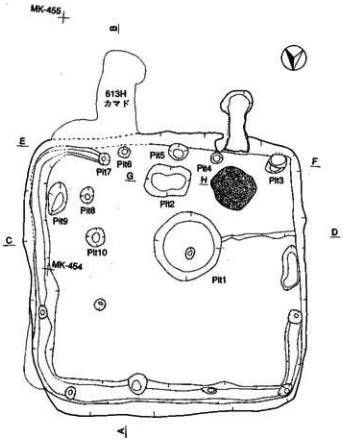
カマド
第1層　褐色土　10YR4/4　天蓋もしくは天蓋の崩落土　焼土微量
第2層　褐色土　10YR4/6　しまり弱
第3層　暗褐色土　7.5YR3/4　崩落した天蓋部が多量混入
第4層　褐色土　10YR4/4　炭化物微量　焼土少量
第5層　黒褐色土　10YR2/3　焼土少量
第6層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物・焼土少量
第7層　褐色土　10YR4/4　焼土微量
第8層　褐色土　7.5YR4/6　ソデ(粘土)
第9層　褐色土　7.5YR4/4　ソデ(粘土)
第10層　暗赤褐色土　5YR3/6　火床面
第11層　黒褐色土　10YR3/2　掘り方
第12層　暗褐色土　10YR3/4　掘り方
第13層　褐色土　7.5YR4/4　カマド構築時の整地層土

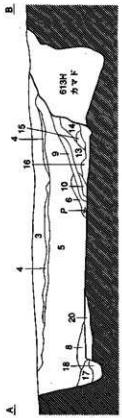
0　1m

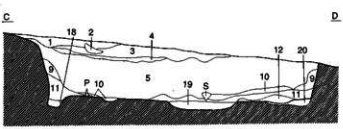


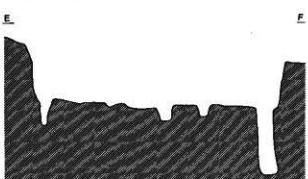
図版番号	種	器	種	出土位置	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	床面		—	(4.6)	(4.8)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り?	BⅡ	黒化・P-1
2	土師器	甕	ピット7フタ上		—	(8.5)	—	ヨコナデ?	ヘラナデ?	—	ヨコナデ?	ヘラナデ?	—	—	A	黒化
3	土師器	小甕	カマド 火床面・支脚		9.2	(9.7)	7.2	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ナデ	ナデ	砂底	AⅢb	P-6・P-13
4	須恵器	壺	南東フタ上		—	(推定1.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-9

図24　第607号竪穴住居跡（2）・出土遺物









第608号竪穴住居跡

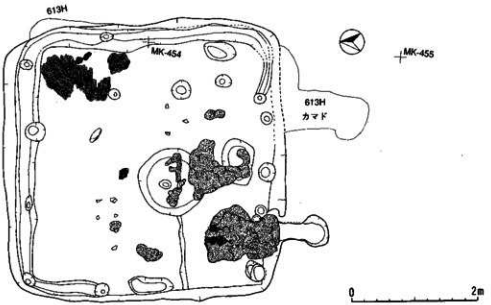
第1層　黒褐色土　10YR2/2
第2層　黒褐色土　10YR2/2　焼土少量
第3層　黒色土　10YR1.7/1
第4層　黒褐色土　10YR3/1
第5層　暗褐色土　10YR3/3
第6層　にぶい褐色土　10YR4/3　LB主体　炭化物微量
第7層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物・焼土少量　ローム微量
第8層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物微量　ローム少量
第9層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物・ローム微量
第10層　赤褐色土　5YR4/8　焼土ブロック主体層
暗褐色土(7.5YR2/3)・炭化物微量
第11層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物・焼土・ローム少量
第12層　褐色土　10YR4/6　LB主体層　炭化物・焼土少量
第13層　にぶい褐色土　10YR4/3　LB多量　炭化物・焼土微量
第14層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物・焼土微量　ローム少量
第15層　褐色土　10YR4/6　崩落した天井
第16層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物・焼土・ローム少量
第17層　暗褐色土　10YR3/4　堆積層土　炭化物微量
第18層　褐色土　7.5YR4/4　堆積層土
第19層　褐色土　7.5YR3/4　Pit1層土　炭化物・焼土少量
第20層　褐色土　10YR4/6　敷床　炭化物少量　焼土微量

Pit2

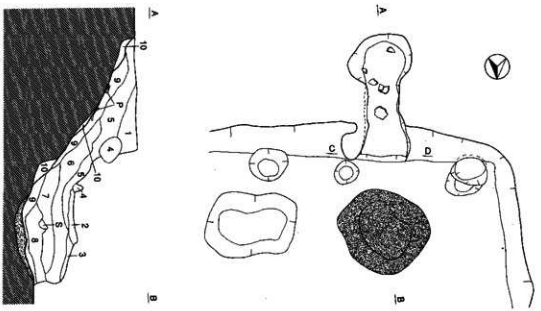
第1層　褐色土　10YR4/4　炭化物少量
第2層　にぶい褐色土　10YR4/3　炭化物少量　焼土微量
第3層　褐色土　7.5YR4/4　焼土主体層　炭化物少量

0　2m

図25　第608号竪穴住居跡（1）



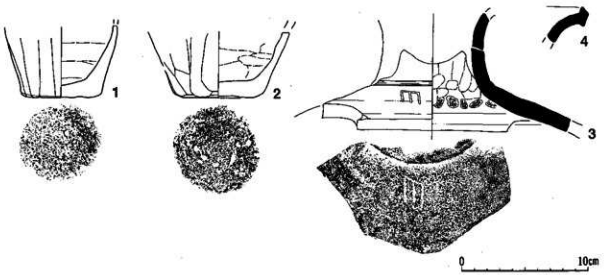
焼土・炭化物出土状況



カマド

第1層	灰黄褐色土	10YR4/2	焼土・炭化物微量
第2層	明褐色土	7.5YR5/6	
第3層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物主体層
第4層	赤褐色土	5YR4/8	被熱した天井ブロック主体
第5層	暗褐色土	7.5YR3/4	被熱した天井の粘質土多量
第6層	にぶい褐色土	10YR4/3	炭化物微量　焼土少量
第7層	灰黄褐色土	10YR4/2	炭化物・焼土少量
第8層	赤褐色土	5YR4/8	焼土主体　炭化物微量
第9層	褐色土	7.5YR4/3	炭化物微量　焼土少量
第10層	褐色土	10YR4/4	掘り方　炭化物微量

図26　第608号竪穴住居跡（2）



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考	
1	土師器	甕	床面 ピット3フチ上	—	(5.7)	6.4	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-8	
2	土師器	甕	フク上	—	(5.3)	7.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ユビナデ	(なし)	A		
3	須恵器	壺	フク上	—	(9.3)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ ヘラナデ	—	—	—	ヘラ書き 灰かぶり P-7	
4	須恵器	壺	フク上	—	(推定2.8)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	灰かぶり	同一個体?

図27 第608号竪穴住居跡 出土遺物

から、細かい炭化物と焼土が出土しており、本住居跡は焼失家屋と思われる。

［出土遺物］ 土師器甕、須恵器壺が出土している。図27－3・4は須恵器壺の頸部破片と口縁部破片で、灰が付着している状況から同一個体の可能性がある。頸部直下にはヘラ書きがあるが、灰を被っていることから筆順などの詳細は観察できない。床面直上から重量408.3ｇの鉄滓片も出土した。

［時 期］ 住居及びカマドの構造や出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

（神 康 夫）

第609号竪穴住居跡（図28～32）

［位 置］ ＭＩ・ＭＪ－450・451に位置する。

［重 複］ 第610号住居跡、第612号竪穴住居跡と重複し、いずれよりも本住居跡が新しい。

［平面形・規模］ 東壁５ｍ51㎝、西壁５ｍ85㎝、南壁５ｍ53㎝、北壁５ｍ44㎝の方形を呈している。床面積は29.95㎡、主軸方位はＮ－170°－Ｅである。

［壁・床面］ 壁高は、東壁59～70㎝、西壁８～12㎝、南壁18～72㎝、北壁13～58㎝である。床面は、東側の大半は地山をそのまま床面として使用し、斜面下方の西側と東側の一部には貼床を施して平坦に整えている。

［周 溝］ 幅10～20㎝、深さ４～19㎝の周溝が、カマドＢ部分以外にほぼ一巡している。カマドＡの下部にも周溝が検出されている。

［ピット］ ピットが７個検出されたが、明確な主柱穴は検出されなかった。

［カマド］ カマド２基、地床炉１基が東壁に構築されている。新しい時期のカマドＡは東壁北側に位置する半地下式カマドで、70㎝ほど住居跡外に延びる。北側の袖は遺存していないが、南側は地山の袖が残っている。火床面は地山をそのまま使用しており、土師器甕の底部片を支脚として用いてお

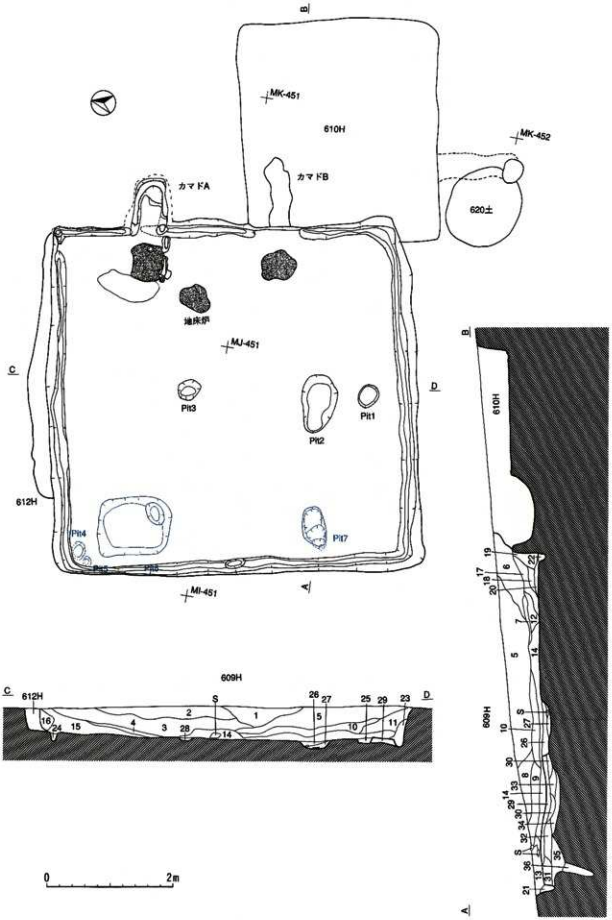


図28　第609号竪穴住居跡（1）

第609号竪穴住居跡

第１層 褐色土 10YR4/4 にぶい黄褐色土(10YR4/3)少量 炭化物・ローム微量
第２層 褐色土 10YR4/4 にぶい黄褐色土(10YR4/3)中量 炭化物・焼土微量
第３層 褐色土 7.5YR4/3 炭化物微量 焼土微量
第４層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物微量 焼土微量
第５層 暗褐色土 10YR3/4 にぶい黄褐色土(10YR4/3)少量 炭化物・ローム微量
第６層 暗褐色土 10YR3/4 にぶい黄褐色土(10YR4/3)少量
炭化物・Ｂ－Ｔｍ微量
第７層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物微量
第８層 褐色土(10YR4/6)と黄褐色土(10YR5/8)の混合土
第９層 褐色土 10YR4/6
第10層 褐色土 10YR4/4 褐色土(7.5YR6/6)少量
第11層 褐色土 10YR4/4 下部に黒褐色土(10YR2/3)少量
第12層 褐色土(7.5YR4/3)と明褐色土(10YR5/6)の混合土 炭化物微量
第13層 黄褐色土 10YR5/6
第14層 暗褐色土 10YR3/4 褐色土(10YR4/6)少量
第15層 褐色土 10YR4/6 明褐色土(7.5YR5/8)少量 炭化物微量
第16層 褐色土 10YR4/6 明褐色土(7.5YR5/6)微量
第17層 褐色土 10YR4/6 褐色土(7.5YR6/6)微量 Ｔｏ－ａ微量
第18層 褐色土 10YR4/4 明褐色土 (7.5YR5/6)少量
第19層 褐色土 10YR4/4 炭化物・焼土微量
第20層 褐色土 10YR4/6 炭化物微量
第21層 褐色土 10YR4/6 焼礫層上
第22層 明褐色土 7.5YR5/8 焼礫層上 暗褐色土(10YR3/4) 微量
第23層 褐色土 7.5YR4/6 焼礫層上
第24層 暗褐色土 10YR3/4 焼礫層上 明褐色土(7.5YR5/8)少量
第25層 褐色土 10YR4/4 Pit1覆土 明褐色土(7.5YR5/6)少量
第26層 褐色土(10YR4/6)と黄褐色土(10YR5/8)の混合土 Pit2覆土
第27層 黒色土(10YR1.7/1)と黒褐色土(10YR3/2)の混合土
Pit2覆土 焼土微量 ローム少量
第28層 暗褐色土 10YR3/3 Pit3覆土 炭化物・焼土微量
第29層 褐色土 7.5YR4/4 掘り方
第30層 褐色土 7.5YR4.6 掘り方
第31層 褐色土 10YR4/4 掘り方
第32層 褐色土 7.5YR4/3 掘り方 ローム中量
第33層 暗褐色土(7.5YR3/4)と明褐色土(7.5YR5/6)の混合土 掘り方 炭化物・焼土微量
第34層 褐色土 (7.5YR4/3)と明褐色土(7.5YR5/6)の混合土 掘り方 炭化物・焼土微量
第35層 褐色土 7.5YR4/4 掘り方 ローム中量
第36層 褐色土 7.5YR4/6 掘り方

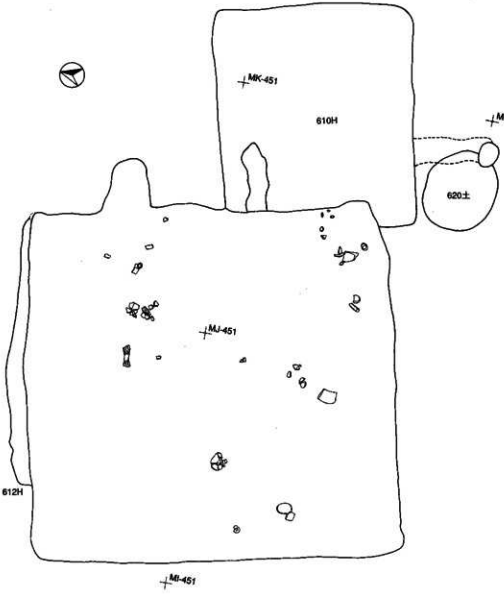
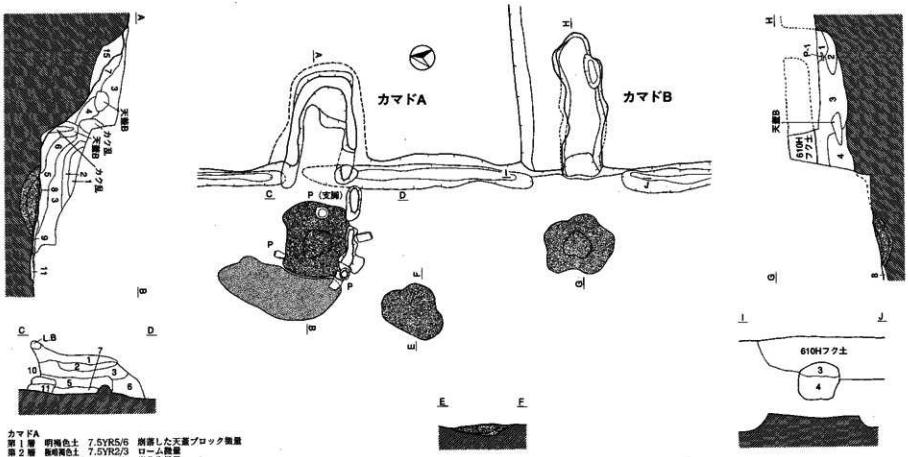


図29 第609号竪穴住居跡（２）

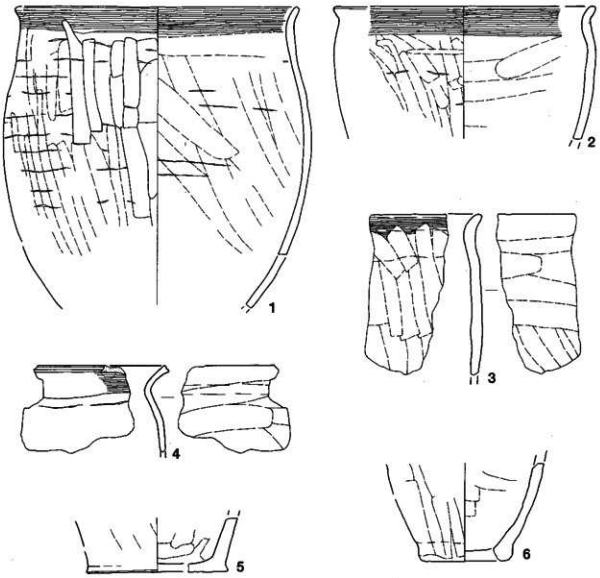


カマドA
第１層　明褐色土　7.5YR5/6　崩落した天蓋ブロック集量
第２層　黒褐黄色土　7.5YR2/3　ローム微量
第３層　褐色土　7.5YR4/6　炭化物微量
第４層　褐色土(7.5YR4/6)黒褐色土(7.5YR3/2)と明褐色土(7.5YR5/6)ブロックの混合土
炭化物微量
第５層　褐色土(7.5YR4/4)と明褐色土(7.5YR5/6)ブロックの混合土
第６層　褐色土(7.5YR4/3)と明褐色土(7.5YR5/8)の混合土　炭化物・焼土微量
第７層　暗褐色土　7.5YR3/3
第８層　褐色土　7.5YR4/4　灰？・焼土微量
第９層　暗褐色土　7.5YR3/4　焼土微量
第10層　褐色土　7.5YR4/6　カマド構築材の粘土ブロック
第11層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物微量　粘土ブロック少量
第12層　橙色土　5YR6/8　水床面
第13層　赤褐色土　2.5YR4/8　水床面
第14層　赤褐色土　5YR4/6　火床面
第15層　褐色土(7.5YR4/3)と明褐色土(7.5YR5/6)の混合土　層上面にスス付着
第16層　黒褐色土　10YR2/2　炭化物少量　焼土微量

地床炉
第１層　赤褐色土　2.5YR4/8　水床面
第２層　褐色土　7.5YR3/4　火床面

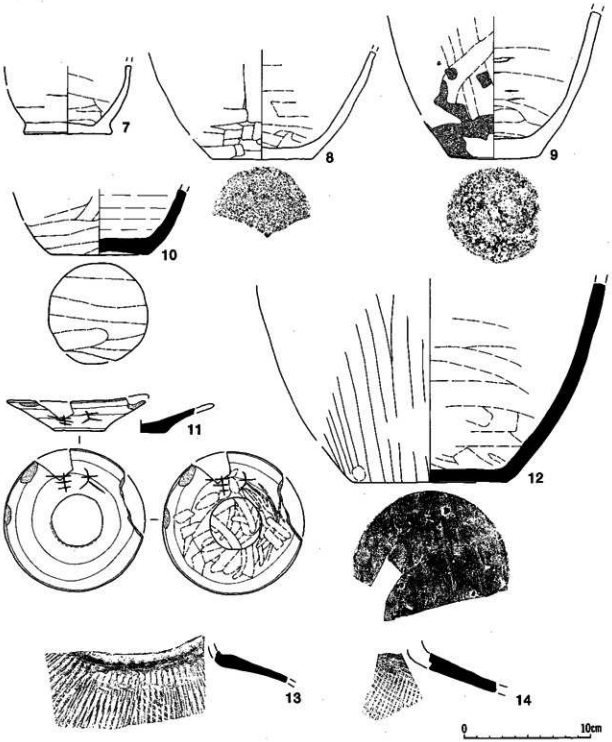
カマドB
第１層　暗赤褐色土　7.5YR3/3　炭化物・焼土微量
第２層　暗赤褐色土　7.5YR3/2　炭化物・焼土微量
第３層　褐色土　10YR4/4　炭化物微量　崩落した天蓋部少量
第４層　褐色土　7.5YR4/4　炭化物微量
第５層　橙色土　7.5YR6/8　火床面
第６層　赤褐色土　5YR4/8　火床面
第７層　明褐色土　7.5YR5/6　火床面
第８層　にぶい褐色土　10YR4/3　貼床

図30　第609号竪穴住居跡（３）



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	炉底 ガマ6・7上	(22.6)	(23.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A1	接後痕 P-8,11,14,104
2	土師器	壺	フク土	(20.8)	(10.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ユビナデ	—	—	A	
3	土師器	壺	ガマ下A層	—	(12.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ナデ	ナデ	—	—	A	P-112
4	土師器	壺	フク土	—	(6.9)	—	ロクロ	ヘラナデ?	—	ナデ	ナデ	—	—	A	620土器と同一個体?
5	土師器	甕	床面直上	—	(4.2)	10.2	—	—	ヘラナデ	—	—	ユビナデ	ヘラナデ	A	
6	土師器	壺	ガマ下A層	—	(7.7)	(6.8)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-114

図31 第609号竪穴住居跡 出土遺物（1）



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
7	土師器	小型	床直	—	(5.4)	7.0	—	—	ヘラナデ?	—	—	スピナデ ヘラナデ	砂底	A	黒化・輪積痕P-5
8	土師器	甕	ﾖﾔﾏ7ｸﾞﾘﾄ	—	(8.7)	7.6	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-105
9	土師器	甕	カマドA 粗面フキ上	—	(11.7)	7.4	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	石英粒土 輪積痕・P-115
10	須恵器	壺	床直	—	(5.2)	8.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ロクロ	ヘラナデ	—	P-6
11	須恵器	鉢	フキ上 6ﾖﾔﾏ7ｸﾞﾘ上	11.2	2.4	4.0	ロクロ	ロクロ	ヘラナデ	ロクロ	ロクロ	ヘラナデ スピナデ	ヘラナデ	—	ヘラ書き「小大」?内面焼土として使用・60801・P-15
12	須恵器	壺	ﾖﾔﾏ7ｸﾞﾘ上 フキ上	—	(15.7)	(12.2)	—	—	ヘラケズリ	—	—	—	ヘラナデ	—	
13	須恵器	甕	床直	—	(推定2.5)	—	—	ロクロ タタキ目	—	—	オサエ・ナデ	—	—	—	P-9
14	須恵器	甕	床面	—	(推定2.3)	—	—	ロクロ タタキ目	—	—	ロクロ・ナデ	—	—	—	P-13

図32　第609号竪穴住居跡　出土遺物（2）

り、倒立状態で出土した。また、火床面の西側98×38cmの範囲の床面が硬化している。煙道部は掘り方を有している。古い時期のカマドBは東壁南側に位置している。煙道の断面形状と住居の新旧関係から地下式カマドになるものと思われ、煙道は110cmほど住居跡外に延びている。煙道部と火床面が遺存しているが、袖は壊されていて残っていない。火床面は地山をそのまま使用しており、カマドBを廃棄した時点で多少土を貼ってカマドA使用時の床面としている。地床炉は、新旧2基のカマドの間に位置している。平面形は52×38cmの不整形をなしている。

［その他の施設］　北西隅に116×92cm、深さ38cmの長方形を呈するピットが検出された。

［堆積土］　堆積土は24層に分層され、褐色土を主体としている。第6層にはB－Tmが、第17層には十和田a火山灰が微量ではあるが検出された。

［出土遺物］　土師器甕、須恵器壺・皿・甕が出土している。図32－11はヘラ書きの施された須恵器皿で、一部破損しているが2文字からなるものと思われる。底部とその周辺にはヘラナデが施され、糸切りもしくはヘラ切りの痕跡は残されていない。この須恵器皿は硯として用いられた可能性があり、内面は全体的につややかで光沢がある。この刻書土器は、第610号竪穴住居跡覆土から出土した破片と接合している。また、覆土から重量182.0gの鉄滓片も出土した。

［時　期］　火山灰の堆積状況や住居及びカマドの構造、出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

（神　康　夫）

第610号竪穴住居跡（図33・34）

［位　置］　MJ・MK－451に位置する。

［重　複］　第609号竪穴住居跡、第620号土坑と重複し、いずれより本住居跡が古い。

［平面形・規模］　第609号竪穴住居跡によって北西部分が壊されており、東壁3m14cm、南壁3m42cmを測り、西壁と北壁はそれぞれ3m00cm、3m50cmほどの、方形になるものと思われる。床面積は推定9.23㎡、主軸方位はN－167°－Eである。

［壁・床面］　壁高は、東壁50～61cm、西壁28～30cm、南壁30～61cm、北壁30～50cmである。床面は地山面をそのまま使用しており、平坦である。

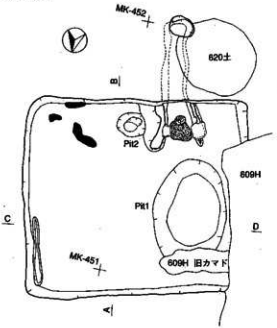
［周　溝］　北東隅に長さ1m10cm、幅8～12cm、深さ5cmほどの溝が検出されたが、周溝とはやや異なっている。

［ピット］　ピットが2個検出され、ピット2は深さ23cmで柱穴となる可能性がある。

［カマド］　南壁西側に構築されている。地下式カマドで、140cmほど住居跡外に延びている。遺存状況は比較的良好で、天蓋として用いられた礫や両袖の芯材、支脚などが検出された。袖の芯材には扁平な礫を用い、それに粘土やロームを貼っている。火床面は掘り込みを持たず、地山面をそのまま使用しており、その奥には支脚として用いられたと思われる碗形鉄滓（重量2000.0g、図33－5）が出土した。煙道はほぼ水平に煙出部下部へと延びている。

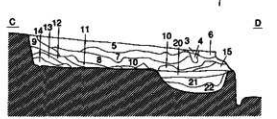
［その他の施設］　中央部やや北西部分に、長軸170cmほどで短軸が118cm、深さ36cmの楕円形のピットが検出された。断面形は鍋底状を呈している。

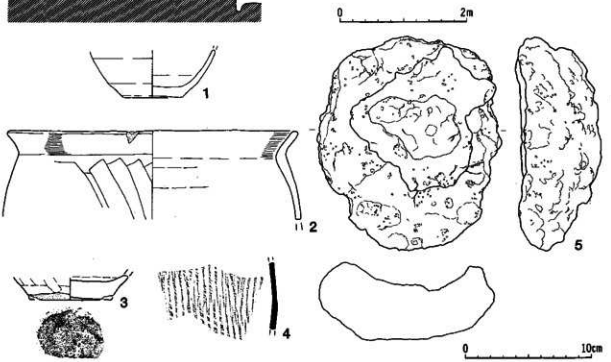
［堆積土］　堆積土は19層に分層され、にぶい黄褐色土・褐色土・暗褐色土が堆積している。南東隅



第610号竪穴住居跡

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム微量
第2層	にぶい褐色土	10YR4/3	粘土微量
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム少量
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム少量
第5層	にぶい褐色土	10YR4/3	粘土少量
第6層	にぶい褐色土	10YR4/3	浮石微量
第7層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物微量　粘土少量
第8層	褐色土	10YR4/4	炭化物微量　粘土中量
第9層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・粘土微量
第10層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土中量
第11層	褐色土	7.5YR4/3	炭化物・焼土少量
第12層	暗褐色土	10YR4/4	ローム微量
第13層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・ローム微量
第14層	黄褐色土	10YR5/6	ローム主体層
第15層	褐色土	10YR4/4	粘土微量
第16層	褐色土	10YR4/6	炭化物微量　粘土少量
第17層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物・粘土微量
第18層	褐色土	10YR4/6	ローム主体層
第19層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物微量
第20層	褐色土	10YR4/4	貼床・Pit1覆土　ローム主体層
第21層	暗褐色土	10YR3/3	Pit1覆土　粘土・ローム少量
第22層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	Pit1覆土　粘土・ローム多量





図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	坏	フタと609Pフタ上	—	(3.7)	4.6	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	B Ⅱ	609H, P-2
2	土師器	甕	フタと609Pフタ上	23.2	(7.0)	—	ヨコナデ?	ヘラケズリ	—	ヨコナデ?	ヘラナデ?	—	—	A	黒化・P-101
3	土師器	甕	フタ上	—	(1.8)	7.0	—	—	ナデ	—	—	ユビナデ	ナデ	A	
4	須恵器	甕	フタ上	—	(5.3)	—	—	—	タタキ目	—	—	ナデ	—	—	

図版番号	出土層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	種類	整理番号	備考
5	カマド火床面	16.9	14.5	6.9	2098.4	磁形鉄滓		カマド支脚

図33　第610号竪穴住居跡（1）・出土遺物

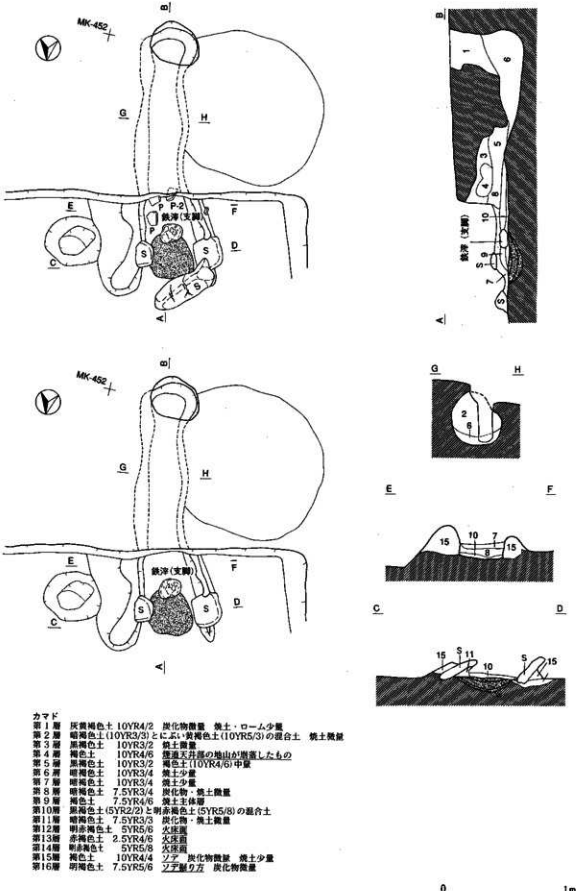


図34 第610号竪穴住居跡（2）

には床面から数cm浮いた状態で炭化物が出土した。

［出土遺物］　土師器坏・甕、須恵器甕が出土している。図33－1・2は、第609号竪穴住居跡覆土出土土器と接合している。他に覆土から重量182.0ｇの鉄滓片も出土した。

［時　期］　住居及びカマドの構造や出土遺物から、９世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（神　　康　夫）

第611号竪穴住居跡（図35・36）

［位　置］　ＭＨ・ＭＩ－448・449に位置する。

［重　複］　認められなかった。

［平面形・規模］　東壁４ｍ70cm、西壁５ｍ05cm、南壁４ｍ70cm、北壁５ｍ30cmのややいびつな方形を呈している。床面積は23.47㎡、主軸方位はＮ－163°－Ｅである。

［壁・床面］　壁高は、東壁62～89cm、西壁15～26cm、南壁21～74cm、北壁27～77cmである。床面は地山を平坦な床面としてそのまま使用している。

［周　溝］　周溝となる可能性のある溝が北西隅で検出された。幅は12～22cm、深さ６～18cmである。

［ピット］　ピットが９個検出されたが、いずれも主柱穴とはならないようである。

［カマド］　南壁西側に構築されている。半地下式カマドで、60cmほど住居跡外に延びる。袖・火床面・煙道とも掘り方を有している。

［堆積土］　堆積土は13層に分層される。上位の１～３層は黒色土あるいは黒褐色土で自然堆積であるのに対し、４層以下の覆土大半はロームで人為的に埋め戻されているようである。

［出土遺物］　土師器甕、須恵器甕が出土し、カマド部分に多かった。また、覆土及び床面直上から総重量1340.2ｇの鉄滓片も出土した。

［時　期］　住居及びカマドの構造や出土遺物から、９世紀後半に構築されたと考えられる。

（神　　康　夫）

第612号竪穴住居跡（図37）

［位　置］　ＭＩ・ＭＪ－450・451に位置する。

［重　複］　第609号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

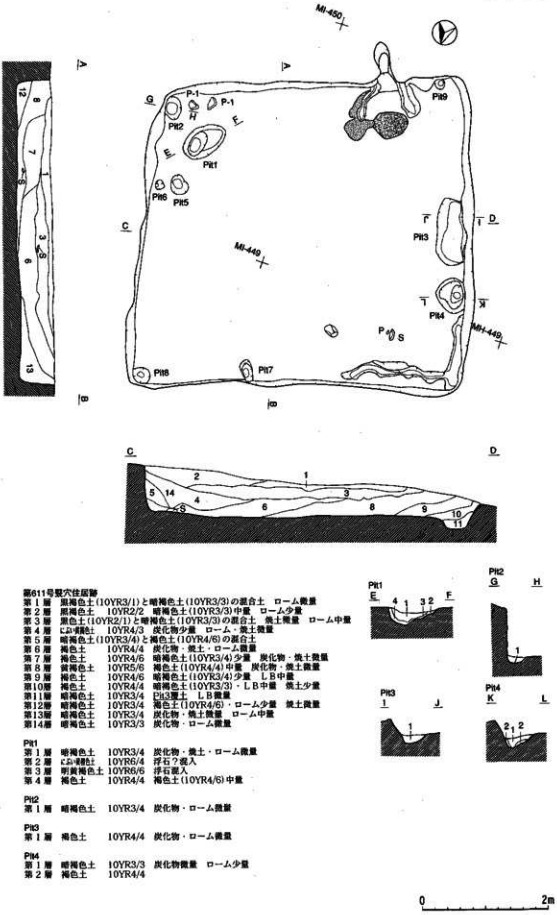
［平面形・規模］　本住居跡は第609号竪穴住居跡によって大半が壊されており、東壁部分のみが検出された。東壁は５ｍ65cmで、西壁・南壁・北壁は遺存していないが、それぞれ５ｍ80cm、３ｍ75cm、４ｍ20cmほどの台形に近い長方形になるものと思われる。床面積は推定19.99㎡、短軸方位はＮ－88°－Ｅ、長軸方位はＮ－２°－Ｗである。

［壁・床面］　壁高は、東壁15～57cmで、他は不明である。検出された床面は、地山をそのまま使用しており、平坦である。

［周　溝］　検出されなかった。

［ピット］　南東隅にピット２が、南西隅にピット３が検出された。それぞれの深さは31cm、39cmで、主柱穴になるものと思われる。

［カマド］　検出されなかった。



第611号竪穴住居跡

第1層	黒褐色土	(10YR3/1)と暗褐色土(10YR3/3)の混合土	ローム微量
第2層	黒褐色土	10YR2/2 暗褐色土(10YR3/3)中量	ローム少量
第3層	黒色土	(10YR2/1)と暗褐色土(10YR3/3)の混合土	焼土微量 ローム中量
第4層	にぶい黄色土	10YR4/3	炭化物少量 ローム・焼土微量
第5層	暗褐色土	(10YR3/4)と褐色土(10YR4/6)の混合土	
第6層	褐色土	10YR4/4	炭化物・焼土・ローム微量
第7層	褐色土	10YR4/6	暗褐色土(10YR3/4)少量 炭化物・焼土微量
第8層	黄褐色土	10YR5/6	褐色土(10YR4/4)中量 炭化物・焼土微量
第9層	褐色土	10YR4/6	暗褐色土(10YR3/4)少量 LB中量
第10層	褐色土	10YR4/4	暗褐色土(10YR3/3)・LB中量 焼土少量
第11層	暗褐色土	10YR3/4	Pit3埋土 LB微量
第12層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/6)・ローム少量 焼土微量
第13層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・焼土微量 ローム中量
第14層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・ローム微量

Pit1

第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・焼土・ローム微量
第2層	にぶい褐色土	10YR6/4	浮石ブロック入
第3層	明黄褐色土	10YR6/6	浮石混入
第4層	褐色土	10YR4/4	褐色土(10YR4/6)中量

Pit2

第1層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・ローム微量

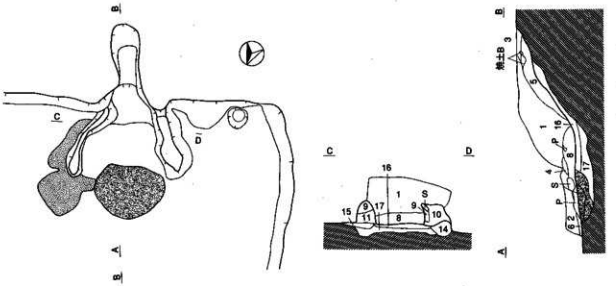
Pit3

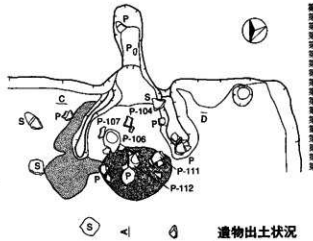
第1層	褐色土	10YR4/4	炭化物・ローム微量

Pit4

第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物微量 ローム少量
第2層	褐色土	10YR4/4	

図35 第611号竪穴住居跡（1）



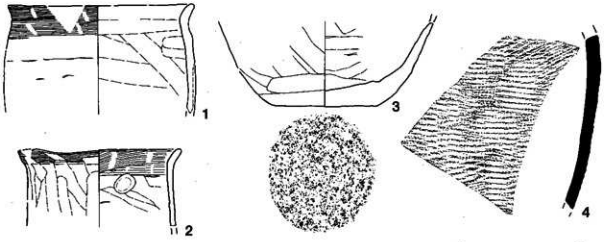


第611号竪穴住居跡カマド

第1層	褐色土	10YR4/4	炭化物・焼土・ローム微量
第2層	褐色土	10YR4/6	焼土微量
第3層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物微量　焼土少量
第4層	明褐色土	7.5YR5/6	浮石中量
第5層	褐色土	7.5YR4/4	焼土少量
第6層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物微量　焼土少量
第7層	褐色土	7.5YR4/6	焼土中量
第8層	褐色土	7.5YR4/4	焼土・ローム微量　崩落した天井部少量
第9層	にぶ褐色土	10YR5/4	ソデ　浮石中量　崩落した天井部少量
第10層	にぶ褐色土	10YR4/3	ソデ　炭化物・焼土微量
第11層	褐色土	10YR4/4	ソデ　炭化物微量　にぶい黄褐色土(10YR5/4)中量
第12層	明赤褐色土	2.5YR5/6	火床面
第13層	赤褐色土	5YR4/8	火床面
第14層	にぶ褐色土	10YR4/3	掘り方
第15層	暗褐色土	10YR3/4	掘り方　炭化物微量　ローム少量
第16層	褐色土	10YR4/4	褐色土(10YR4/6)中量　炭化物微量
第17層	黄褐色土	10YR5/6	焼土微量

遺物出土状況

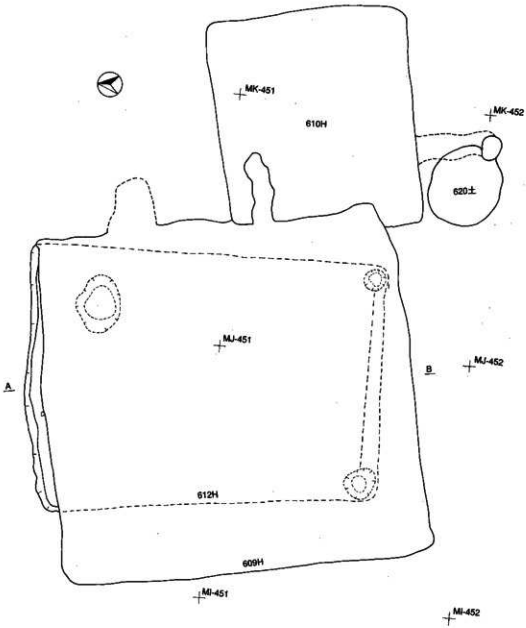
0　1m

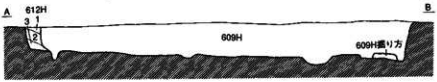


0　10cm

図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	フクミ カマド天井部	(14.8)	(8.8)	—	ヨコナデ	(不明)	—	ナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面ススバキ 被熱部P-111
2	土師器	甕	カマド天井部 カマドフクミ	13.3	(5.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ナデ	ナデ	—	—	A	P-104・112
3	土師器	甕	カマド天井部	—	(6.7)	8.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ユビナデ	砂底	A	被熱部P-106・107・112・底面部円
4	須恵器	甕	床直	—	(13.8)	—	—	—	タタキ目	—	—	ナデ	—	—	P-1

図36　第611号竪穴住居跡（2）・出土遺物





第612号竪穴住居跡
第1層　黒褐色土　10YR3/2
第2層　暗褐色土　10YR3/4　明褐色土（7.5YR5/6）微量
第3層　褐色土　7.5YR4/3　炭化物微量

0　2m

図37　第612号竪穴住居跡

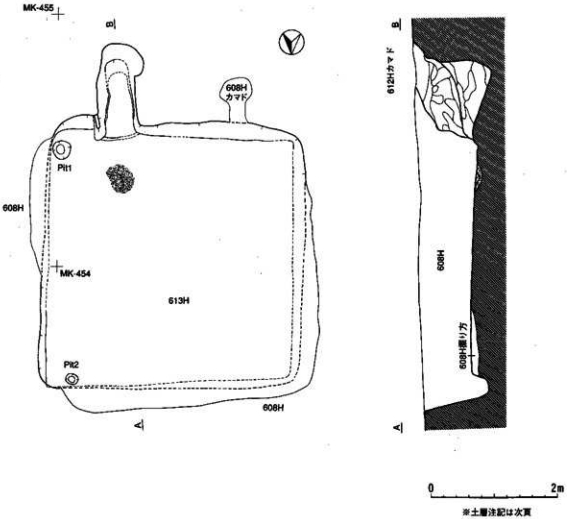


図38　第613号竪穴住居跡（1）

［その他の施設］　92×69cmの不整楕円形で深さ13cmほどのピット1が北東部分で検出された。

［堆積土］　堆積土は3層に分層された。

［出土遺物］　第609号竪穴住居跡との重複によって遺構の大半がほとんど壊されており、遺物は出土しなかった。

［時　期］　重複関係から9世紀後半に構築されたと考えられる。

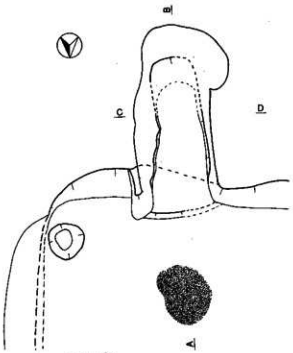
（神　康　夫）

第613号竪穴住居跡（図38・39）

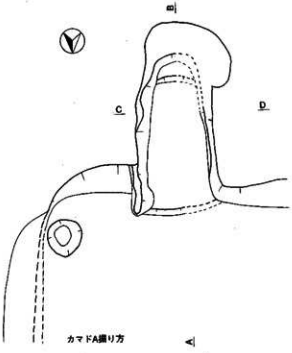
［位　置］　MK－453・454に位置する。

［重　複］　第608号住居跡と重複し、本住居跡が古い。第608号住居跡と主軸方位が多少ずれるものの、位置的に全く重なった状況であり、本住居跡は改築される前のものである可能性がある。

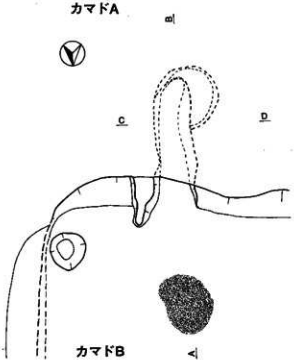
［平面形・規模］　本住居跡は南壁と東壁の一部が遺存しているだけで、大半が第608号竪穴住居跡によって大半が壊されている。おそらく東壁4ｍ23cm、西壁3ｍ90cm、南壁3ｍ85cm、北壁4ｍ08cmの規模で方形を呈するものと思われる。床面積は15.12㎡、主軸方位はN－177°－Wと思われる。



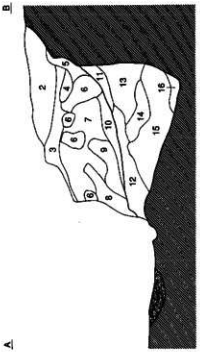
カマドA

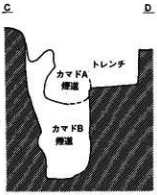


カマドA掘り方



カマドB





カマド

第1層	黒色土	10YR1.7/1	炭化物微量
第2層	褐色土	10YR4/4	炭化物・焼土微量
第3層	灰黄褐色土	10YR4/2	炭化物・焼土微量
第4層	褐色土	10YR4/6	
第5層	暗褐色土	7.5YR3/4	炭化物・焼土微量
第6層	明褐色土	7.5YR5/6	カマドAの天井ブロック
第7層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・焼土微量
第8層	褐色土	10YR4/6	暗褐色土(10YR3/4)中量　炭化物少量
第9層	赤褐色土	5YR4/8	
第10層	暗褐色土	10YR3/3	カマドAの底面直上層
第11層	明褐色土	7.5YR5/6	炭化物微量
第12層	黒褐色土	10YR3/2	褐色土(10YR4/6)微量
第13層	暗褐色土	10YR3/3	褐色土(7.5YR4/6)少量　炭化物微量
第14層	明褐色土	7.5YR5/6	褐色土(7.5YR4/6)・炭化物微量
第15層	明褐色土	7.5YR5/6	炭化物少量
第16層	明褐色土	7.5YR5/6	褐色土(7.5YR4/6)微量　炭化物少量
第17層	明赤褐色土	2.5YR5/8	焼床面
第18層	にぶい赤色土	2.5YR4/8	焼床面

0　1m

図39　第613号竪穴住居跡（2）

［壁・床面］　遺存している壁高は、東壁86cm、南壁78cmである。第608号竪穴住居跡より床面が高いため、床面はほとんど遺存しておらず、床面の状況は不明である。

［周　溝］　遺存している床面では周溝が検出されておらず、周溝は作られなかったものと思われる。

［ピット］　南東隅のピット１と北東隅のピット２の２個検出され、それぞれの深さは40cm、36cmで、主柱穴と思われる。また、第608号竪穴住居跡で検出されたピットの中に、本住居跡に伴う可能性のあるものもあるが、明確でないため図示していない。

［カマド］　南壁東側に構築され、新旧２期の煙道がある。新しい時期のカマドＡは半地下式カマドで、110cmほど住居跡外に延びている。古い時期のカマドＢは煙道の形状から地下式カマドの可能性が高く、90cmほど住居跡外に延びている。火床面は共有していたものと思われ、１枚だけ検出された。袖部は第608号竪穴住居跡に壊されていない東側部分のみが検出され、粘土とロームで構築されている。

［堆積土］　第608号竪穴住居跡によって壊されており、堆積土は不明である。

［出土遺物］　第608号竪穴住居跡との重複によって大半が壊されており、遺物はカマド部分から出土した若干の土師器片以外は出土しなかった。

［時　期］　カマドの構造や出土遺物から、９世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（神　康　夫）

2 土坑

第601号土坑（図40）

［位　置］　MM－470に位置する。第602号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

［平面形・規模］　長軸127cm、短軸71cmの楕円形で、確認面からの深さは12cmの浅い土坑である。底面は凹凸がなく整えられている。

［堆積土］　暗褐色土を主体として、2層に分層される。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第602号土坑（図40）

［位　置］　MM・MN－469に位置する。第601号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

［平面形・規模］　南端が第601号土坑と重複しているため長軸は不明であるが、おそらく長軸210cm、短軸が85cmの長方形をなすものと思われ、南端には40cmほどの突出部分がある。底面は凹凸がなく、深さは7cmほどの浅い土坑である。斜面下方にあたる西側では壁の立ち上がりは明瞭でない。

［堆積土］　褐色土を主体として、2層に分層される。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第603号土坑（図40・44）

［位　置］　MM・MN－469に位置する。第604号土坑と重複するが、本土坑が新しい。

［平面形・規模］　直径90cmの円形で、底面は平坦である。確認面からの深さは74cmであるが、南東部分は風倒木によって一部壊されている。

［堆積土］　5層に分層され、覆土は暗褐色土を主体とし、底面付近は褐色土を主体としている。

［出土遺物］　図44－1・2は、覆土から出土した土師器甕である。他に覆土から、土師器と須恵器の破片が出土している。

第604号土坑（図40）

［位　置］　MM・MN－469に位置する。第603号土坑と重複するが、本土坑が古い。

［平面形・規模］　第603号土坑によって一部壊されているが、おそらく直径75cmほどの円形を呈するものと思われる。底面は平坦で、確認面からの深さは25cmである。

［堆積土］　暗褐色土を主体として、3層に分層される。

［出土遺物］　覆土から土師器の破片が出土している。

第605号土坑（図40）

［位　置］　MM－468・469に位置する。第601号掘立柱建物跡と重複するが、新旧関係は不明である。

［平面形・規模］　長軸173cm、短軸77cmの楕円形で、底面には凹凸があり、整えられていない。確認面からの深さは35cmである。西壁際には48×20cm、深さ5cmの溝状のピットがあり、南東部には直径22cm、深さ10cmの円形のピットがある。

［堆積土］　暗褐色土を主体として、4層に分層される。
［出土遺物］　覆土から土師器の破片が出土している。

第606号土坑（図40）
［位　置］　MM－469に位置する。
［平面形・規模］　直径70～75cmのほぼ円形を呈しており、底面は平坦に整えられ、深さは15cmである。
［堆積土］　暗褐色土と黒褐色土が堆積している。
［出土遺物］　覆土から土師器の破片が出土している。

第607号土坑（図41）
［位　置］　ML・MM－466に位置する。
［平面形・規模］　長軸128cm、短軸106cmの楕円形で、底面は凹凸が少なくほぼ平坦で、確認面からの深さは20cmである。
［堆積土］　暗褐色土を主体として、3層に分層される。
［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第608号土坑（図41・44）
［位　置］　ML－462に位置する。
［平面形・規模］　長軸136cm、短軸116cmの楕円形で、底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは18～25cmである。
［堆積土］　褐色土を主体として、2層に分層される。
［出土遺物］　底面から土師器の小型土器（図44－3）破片が出土している。

第609号土坑（図41）
［位　置］　MM－462に位置する。
［平面形・規模］　長軸187cm、短軸160cmの不整方形で、底面にはやや凹凸がある。深さは14～28cmである。
［堆積土］　2層に分層され、暗褐色土を主体としている。
［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第610号土坑（図40）
［位　置］　MM－469に位置する。
［平面形・規模］　長軸53cm、短軸42cmの楕円形で、底面は平坦である。深さは33cmで全体の形態は柱穴状をなしている。
［堆積土］　暗褐色土を主体として、2層に分層される。
［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第611号土坑（図41）

［位　置］　ＭＪ－458に位置する。

［平面形・規模］　長軸68cm、短軸57cmの不整円形で、底面は平坦である。確認面からの深さは28cmである。

［堆積土］　暗褐色土を主体として、２層に分層される。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第612号土坑（図42）

［位　置］　ＭＫ－458に位置する。

［平面形・規模］　確認面では長軸59cm、短軸36cmの楕円形であるが、全体の形態は柱穴状である。底面は丸底状で、確認面からの深さは44cmである。

［堆積土］　暗褐色土を主体として、２層に分層される。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第613号土坑（図42）

［位　置］　ＭＫ－458に位置する。

［平面形・規模］　直径30～34cmのほぼ円形をなし、全体の形態は柱穴状である。底面は丸底状で、確認面からの深さは24cmである。

［堆積土］　暗褐色土を主体として、２層に分層される。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第614号土坑（図42）

［位　置］　ＭＫ－457に位置する。第615号土坑と重複し、本土坑が古い。

［平面形・規模］　長軸155cm、短軸133cmの隅丸方形を呈する。底面は平坦で、深さは36cmである。

［堆積土］　３層に分層され、暗褐色土を主体とする。底面直上には黒褐色土が、底面には褐色土が堆積している。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第615号土坑（図42）

［位　置］　ＭＪ・ＭＫ－457に位置する。第614号土坑と重複し、本土坑が新しい。

［平面形・規模］　長軸136cm、短軸98cmの楕円形を呈する。底面は凹凸がなく整えられており、深さは８～12cmであるが、南側は18cmとやや深くなっている。底面北側には直径13cmほどのピットが４個検出されたが、深さにばらつきがあり、その目的は不明である。

［堆積土］　褐色土を主体として、２層に分層される。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第616号土坑（図42）

［位　置］　ＭＥ・ＭＦ－460に位置する。第606号溝状遺構と重複し、新旧関係は不明である。

［平面形・規模］　長軸145cm、短軸113cmの長方形を呈しており、底面は平坦である。確認面からの深さは斜面上方にある東壁は43cm、斜面下方にある西壁は16cmで、斜面中位にある南壁・北壁はそれぞれ25cm、35cmを測る。底面より５～10cm上方の壁は被熱して赤色化しており、部分的に青灰色を呈する部分もある。

［堆積土］　６層に分層され、上層には黒色土が、覆土中位には褐色土が、底面近くでは黒褐色土が堆積している。これらは自然堆積と思われ、覆土中位の第２層にはＢ－Ｔｍが、底面直上の第６層には炭化材が混入している。

［出土遺物］　覆土から土師器の破片と鉄滓片（重量311.2ｇ）が出土している。

第617号土坑（図43）

［位　置］　ＭＪ－454・455に位置する。

［平面形・規模］　長軸118cm、短軸110cmの隅丸方形で、底面は平坦に整えられている。確認面からの深さは32cmで、斜面上方の東壁では40cm、斜面下方の西壁では26cmである。

［堆積土］　黄褐色土を主体として、５層に分層されるが、覆土上位では暗褐色土が堆積している。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第618号土坑（図43）

［位　置］　ＭＪ－454に位置する。

［平面形・規模］　長軸67cm、短軸60cmのほぼ円形で、底面は平坦である。確認面からの深さは26cmである。

［堆積土］　暗褐色土を主体として、３層に分層される。覆土中位の第２層には焼土粒が含まれている。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第619号土坑（図43・44）

［位　置］　ＭＪ－454に位置する。

［平面形・規模］　長軸66cm、短軸54cmの楕円形で、底面は凹凸がない。確認面からの深さは５～８cmで、斜面下方の西側は明瞭な壁の立ち上がりはみられない。

［堆積土］　焼土・炭化物を混入する褐色土が堆積している。

［出土遺物］　覆土から土師器の破片が出土している。

第620号土坑（図43・44）

［位　置］　ＭＪ－451・452に位置する。第610号竪穴住居跡と重複し、本土坑が新しい。

［平面形・規模］　長軸136cm、短軸113cmの楕円形で、底面は概ね平坦で、確認面からの深さは10～18cmである。

［堆積土］　褐色土を主体として、4層に分層される。
［出土遺物］　覆土や底面直上から土師器と須恵器の破片が出土している。

第621号土坑（図43）
［位　置］　ＭＫ－454・455に位置する。
［平面形・規模］　長軸66㎝、短軸55㎝の楕円形で、底面は平坦に整えられている。確認面からの深さは12㎝である。
［堆積土］　褐色土を主体として、2層に分層される。
［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第622号土坑（図48）
［位　置］　ＭＩ－449に位置する。第607号溝状遺構と重複し、本土坑が古い。
［平面形・規模］　長軸60㎝、短軸45㎝の楕円形で、底面は凹凸がなく、確認面からの深さは18㎝である。
［堆積土］　Ｂ－Ｔｍを極微量含むにぶい黄褐色土を主体としている。
［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第623号土坑（図43）
［位　置］　ＭＪ－456・457に位置する。
［平面形・規模］　長軸80㎝、短軸51㎝の楕円形で、底面は丸底風で、深さは24㎝である。
［堆積土］　暗褐色土を主体として、2層に分層される。
［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第624号土坑（図43）
［位　置］　ＭＪ－457に位置する。
［平面形・規模］　長軸55㎝、短軸44㎝の楕円形で、底面は凹凸がなく丸底状である。確認面からの深さは7㎝である。
［堆積土］　褐色土が堆積している。
［出土遺物］　覆土から土師器の破片が出土している。

（神　康　夫）

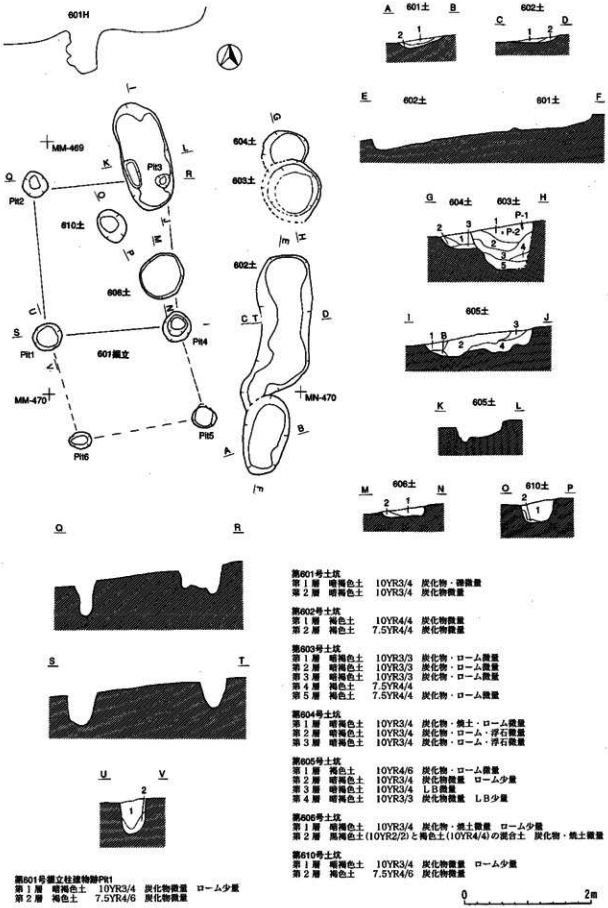
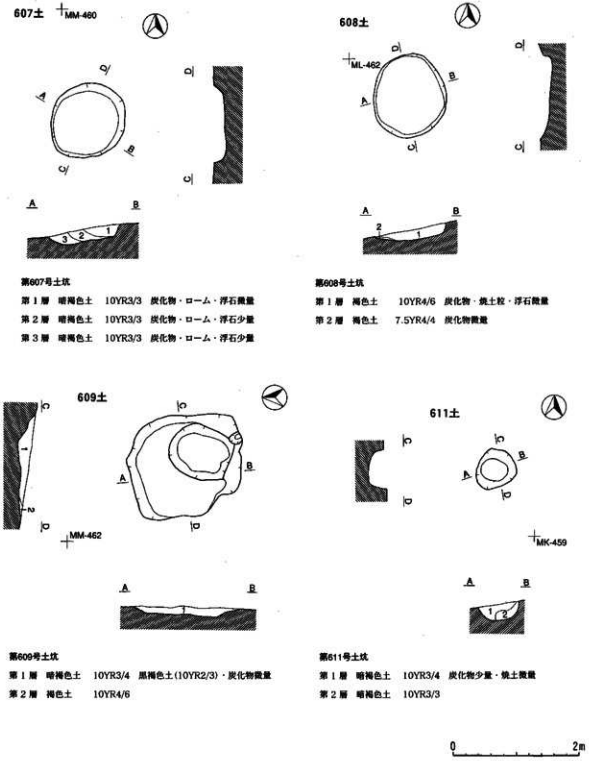


図40 第601号・第602号・第603号・第604号・第605号・第606号・第610号土坑・第601号掘立柱建物跡



第607号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・ローム・浮石微量

第2層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・ローム・浮石少量

第3層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・ローム・浮石少量

第608号土坑

第1層 褐色土 10YR4/6 炭化物・焼土粒・浮石微量

第2層 褐色土 7.5YR4/4 炭化物微量

第609号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/4 黒褐色土(10YR2/3)・炭化物微量

第2層 褐色土 10YR4/6

第611号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物少量・焼土微量

第2層 暗褐色土 10YR3/3

図41 第607号・第608号・第609号・第611号土坑

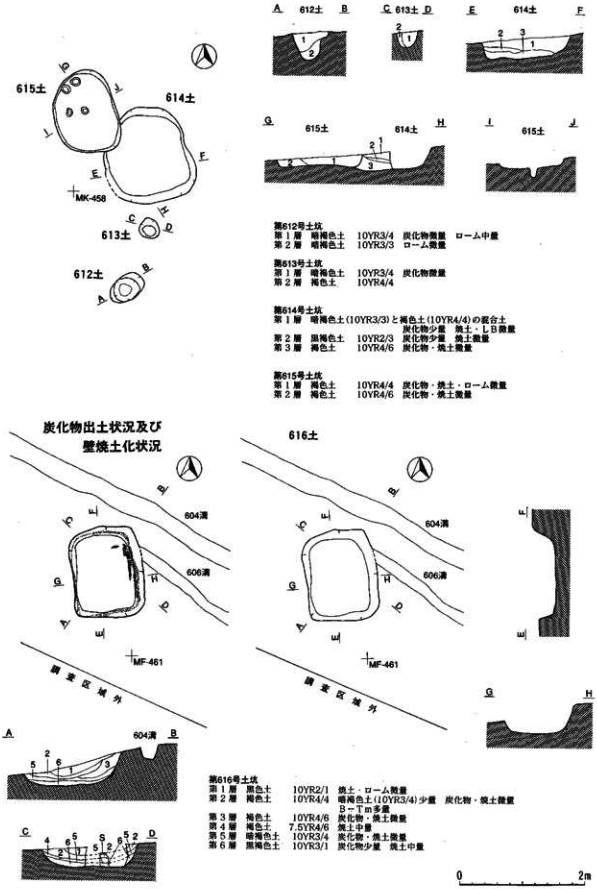


図42 第612号・第613号・第614号・第615号・第616号土坑

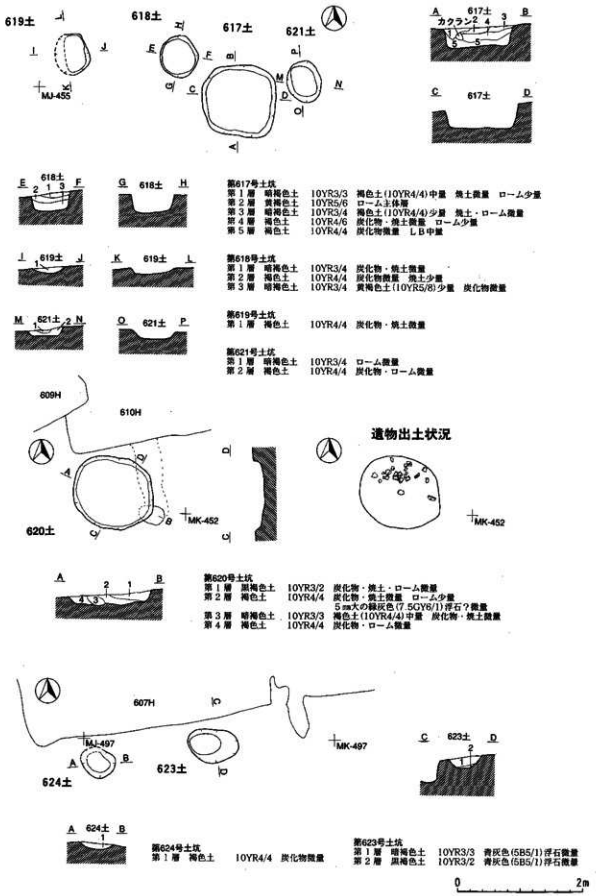
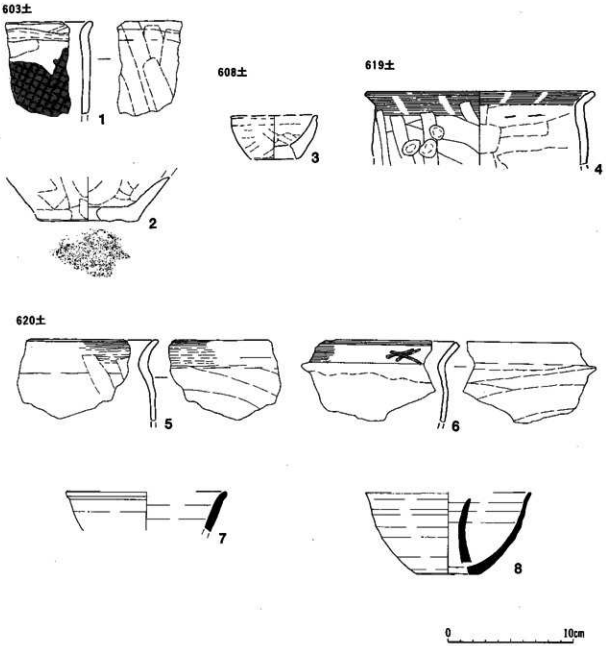


図43 第617号・第618号・第619号・第620号・第621号・第623号・第624号土坑



図版番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	甕	603土1層	—	(7.4)	—	ナデ	ナデ	—	ナデ	ナデ	—	—	A	全体に風化 炭化物付着・P-1
2	土師器	甕	603ピット1	—	(3.5)	(8.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ユビナデ	砂底	A	
3	土師器	小型土器	608土底部	(7.0)	(4.0)	(3.5)	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	—	—	
4	土師器	甕	619ピット1	18.4	(5.9)	—	ロクロ	ヘラケズリ	—	ロクロ	ヘラナデ	—	—	A	外面ユビアト 内面輪積痕
5	土師器	甕	620ピット1	—	(6.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	風化
6	土師器	甕	620ピット1	—	(6.9)	—	ロクロ			ナデ	ナデ			A	60DH14と同一個体? 風化・ヘラ書き?・P-12
7	須恵器	坏	620土底面	(12.8)	(3.1)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	P-3
8	須恵器	坏	620ピット1	(13.0)	6.5	(5.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	—	火ダスキ痕・P-9

図44　土坑出土遺物

3 その他の遺構

（1）溝状遺構

第601号溝状遺構（図45）

［位　置］　ＭＬ・ＭＭ－467、ＭＭ・ＭＮ－468、ＭＮ－469に位置する。第601号竪穴住居跡と重複し、本溝状遺構が新しい。

［平面形・規模］　幅17～34㎝、確認面からの深さ５～19㎝、調査区域内での長さ約8.7ｍで、南東から北西方向に作られている。

［堆積土］　暗褐色土が堆積している。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第602号溝状遺構（図45）

［位　置］　ＭＬ・ＭＭ－467、ＭＭ・ＭＮ－468に位置する。第601号竪穴住居跡と重複し、本溝状遺構が新しい。

［平面形・規模］　幅10～36㎝、確認面からの深さ５～17㎝、調査区域内での長さ約8.5ｍで、南東から北西方向に作られている。

［堆積土］　暗褐色土が堆積している。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第603号溝状遺構（図46）

［位　置］　ＭＩ－463・464、ＭＪ－464に位置し、北西端は調査区域外に延びている。

［平面形・規模］　幅22～30㎝、確認面からの深さ７～20㎝、調査区域内での長さ約8.7ｍで、南東から北西方向に作られている。

［堆積土］　暗褐色土が堆積している。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第604号溝状遺構（図46）

［位　置］　ＭＣ・ＭＤ－457・458、ＭＤ・ＭＥ－459、ＭＥ・ＭＦ－460、ＭＦ・ＭＧ－461、ＭＨ－461、ＭＨ・ＭＩ－462、ＭＩ・ＭＪ－463に位置する。北西端は調査区域外に延びている。

［平面形・規模］　幅18～38㎝で、確認面からの深さには多少のバラツキがみられる。斜面上方は４～７㎝程度で浅く、斜面中位のＭＦ－460グリッド付近から16～23㎝と深くなっていき、北東端でもっとも深く、38㎝を測り、調査区域外へ延びている。調査区域内での長さは約34.9ｍで、南東から北西方向に作られている。

［堆積土］　２層に分層され、上位が黒褐色土、下層が暗褐色土となっている。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第605号溝状遺構（図47）

［位　置］　ＭＥ－444、ＭＥ－445、ＭＣ・ＭＤ・ＭＥ－446、ＭＣ－447、ＭＣ・ＭＤ－448、ＭＤ－

449・450・451、ＭＤ・ＭＥ－452・453、ＭＥ－454に位置する。

［平面形・規模］　幅70～123㎝、確認面からの深さは10～35㎝で、調査区域内での長さ約46.8ｍで、ＭＤ－450付近がもっとも標高が低く、南北両方向から水が流れ込むように作られている。

［堆積土］　２層ないしは３層に分層され、上位は黒褐色土が、下位には褐色土が堆積している。ＭＤ－451のセクションにはＢ－Ｔｍが含まれている。

［出土遺物］　覆土から土師器・須恵器・鉄滓（重量1507.8ｇ）が出土している。

第606号溝状遺構（図46）

［位　置］　ＭＦ－460・461に位置する。第616号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

［平面形・規模］　幅13～22㎝、深さ７～11㎝、北東端は第616号土坑と重複しており、調査区内で確認できる長さは約3.3ｍで、南東から北西方向に作られている。

［堆積土］　暗褐色土が堆積している。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第607号溝状遺構（図48）

［位　置］　ＭＩ－449・450、ＭＪ－449に位置する。おそらく第609号溝状遺構と同一のものと思われる。第622号土坑と重複し、本遺構が新しい。

［平面形・規模］　幅29～35㎝、確認面からの深さ10㎝、調査区内での長さ約5.5ｍで、北東から南西方向に作られている。

［堆積土］　暗褐色土を主体とし、２層に分層される。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第608号溝状遺構（図48）

［位　置］　ＭＩ・ＭＪ－449、ＭＪ－448に位置する。おそらく第610号溝状遺構と同一のものと思われる。

［平面形・規模］　幅28～47㎝、確認面からの深さ５～11㎝、調査区内での長さ約6.2ｍで、北東から南西方向に作られている。

［堆積土］　２層に分層され、暗褐色土と褐色土が堆積している。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第609号溝状遺構（図48）

［位　置］　ＭＪ－448に位置し、北東端は調査区域外に延びている。おそらく第607号溝状遺構と同一のものと思われる。第611号溝状遺構と重複し、本遺構が古い。

［平面形・規模］　幅20～36㎝、確認面からの深さ12㎝、調査区内での長さ約1.8ｍで、北東から南西方向に作られている。

［堆積土］　暗褐色土が堆積している。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第610号溝状遺構（図48）

［位　置］　ＭＪ－448に位置し、北東端は調査区域外に延びている。おそらく第608号溝状遺構と同一のものと思われる。

［平面形・規模］　幅17～30cm、確認面からの深さ15cm、調査区域内での長さ約2.0ｍで、北東から南西方向に作られている。

［堆積土］　２層に分層され、暗褐色土と褐色土が堆積している。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

第611号溝状遺構（図48）

［位　置］　ＭＪ－448に位置し、北東端は調査区域外に延びている。第609号溝状遺構と重複し、本溝状遺構が新しい。

［平面形・規模］　幅33～44cm、確認面からの深さ16cm、調査区域内での長さ約2.0ｍで、弧状を呈している。北東から南方向に作られている。

［堆積土］　にぶい黄褐色土が堆積している。

［出土遺物］　遺物は、出土しなかった。

（神　康　夫）

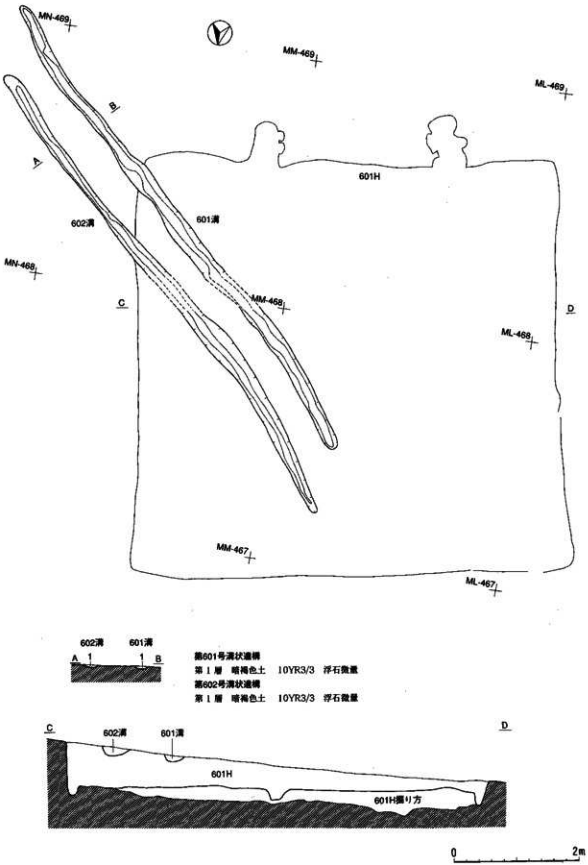


図45　第601号・第602号溝状遺構

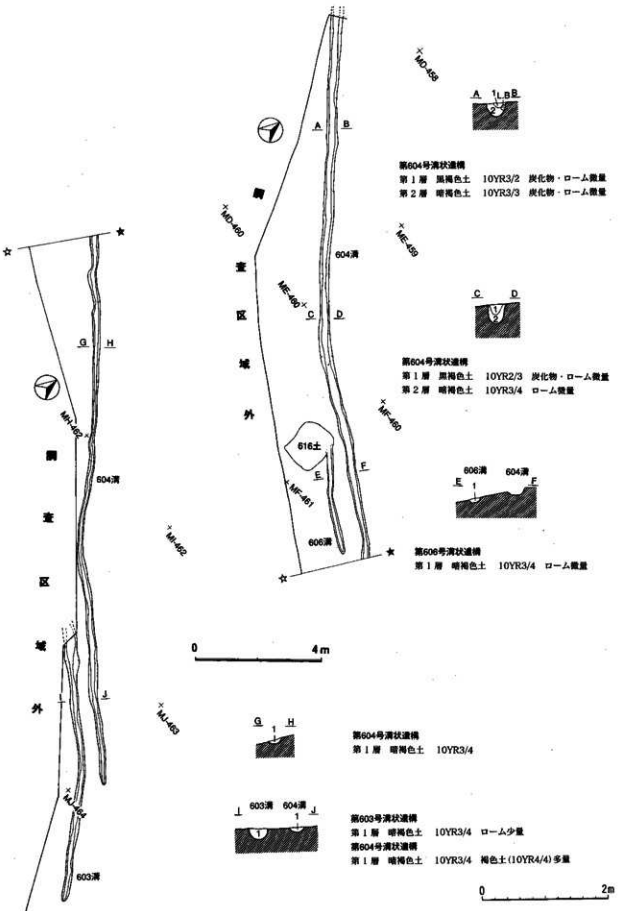
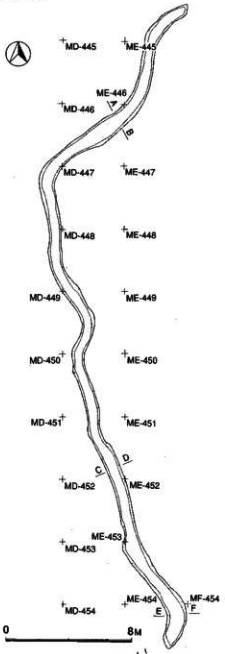


図46 第603号・第604号・第606号溝状遺構

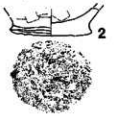


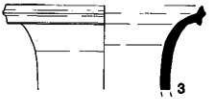
第605号溝状遺構
第1層 黒褐色土 10YR3/2 焼土微量
第2層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物・ローム微量
第3層 にぶい黄褐土 10YR4/3 ローム主体 浮石少量

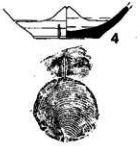
第605号溝状遺構
第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物・ローム微量
第2層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物・ローム微量
第3層 褐色土 10YR4/6 ローム主体

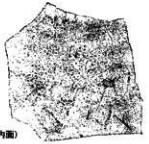
第605号溝状遺構
第1層 褐色土(10YR4/4)と黒褐色土(10YR2/2)の混合土 炭化物・ローム微量
第2層 暗褐色土 10YR3/3 褐色土(10YR4/6)少量 炭化物微量

0 2m









(内面)

0 10cm

遺物番号	種	類	器	種	出土位置	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器		坏		フク土	—	(4.0)	(5.2)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
2	土師器		甕		フク土	—	(2.3)	(6.6)	—	—	ユビナデ ヘラナデ	—	—	ユビナデ	砂底	A	
3	須恵器		壺		フク土	(15.6)	(6.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
4	須恵器		坏		フク土	—	(2.2)	5.0	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	—	丸ボウキ痕・ヘラ書き・P-1
5	須恵器		甕		フク土	—	(推定4.8)	—	—	ロクロ ナデ・ケズリ	—	—	カキコ・ABC調 ユビナデ	—	—	—	P-2

図47 第605号溝状遺構・出土遺物

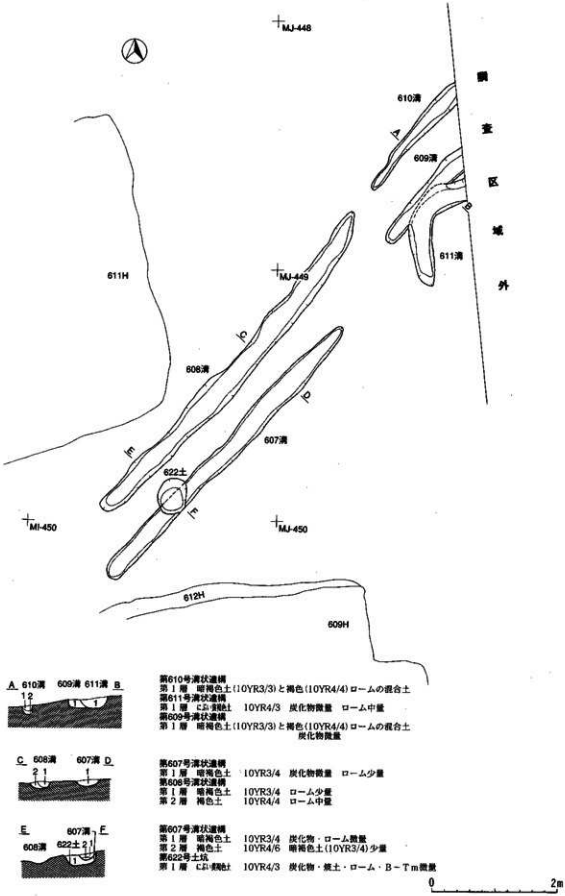


図48 第622号土坑、第607号・第608号・第609号・第610号・第611号溝状遺構

（2）掘立柱建物跡

第601号掘立柱建物跡（図40）

［位　置］　ＭＬ・ＭＭ－469・470に位置する。ピット３が第605号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。また、第606号土坑、第610号土坑が柱間内に位置するが本建物跡に付属するものかどうかも不明である。

［平面形・規模］　東西１間、南北１間の建物跡である。南側に、軸が大きくずれるがピットが２基検出されており、これも伴う可能性がある。東西の柱間寸法はピット２～３・2.04m、ピット１～４・2.07m、ピット６～５・1.99m、南北の柱間寸法はピット１～２・2.46m、ピット３～４・2.28m、ピット１～６・1.70m、ピット４～５・1.50mである。それぞれの柱穴の規模と確認面からの深さは、ピット１・径46×42cm・深さ56cm、ピット２・径42×39cm・深さ58cm、ピット３・径23×21cm・深さ49cm、ピット４・径48×43cm・深さ48cm、ピット５・径39×33cm・深さ46cm、ピット６・径35×26cm・深さ40cmである。ピット３の径が小さいが、第605号土坑底面での計測値であるため、確認面では他のピットと同程度の規模であるものと思われる。

［堆積土］　ピット３で炭化物を微量に混入する暗褐色土と褐色土が堆積している。他のピットも同様であった。

［出土遺物］　遺物は出土しなかった。

（神　康　夫）

第2節 遺構外の出土遺物

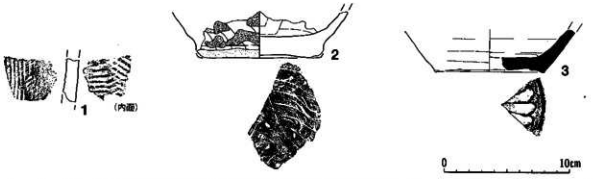
調査に入った時点ですでに、遺構確認面まで掘り下げられてあったことから、遺構外の遺物はほとんど出土しなかった。しかし、木の根株などから土師器及び須恵器が少数出土しており、3点だけ図示することとした。

図49－1は土師器鍋の胴部破片と思われるものである。内外面ともタタキ目を有し、外表面の半分は砂底のように砂が付着している。

図49－2は土師器甕の底部破片で、底部周縁は剥落している。胴部器表面には化粧粘土が付着し、底面には木葉痕がある。

図49－3は須恵器壺の底部破片で、ロクロ成形の後、外面はナデ、内面はユビナデによって再調整されている。底面には菊花状の調整がなされている。

（神　康夫）



遺物番号	種類	器種	出土位置	計測値(cm) 口径	器高	底径	外面調整 口縁部	体部上半	体部下半	内面調整 口縁部	体部上半	体部下半	底面調整	分類	備考
1	土師器	鍋?	排土	—	(3.3)	—	—	タタキ目	—	—	タタキ目	—		—	
2	土師器	甕	排土	—	(3.7)	(10.2)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	木葉痕・ナデ	A	化粧粘土付着
3	須恵器	壺	MP-MC-4/5	—	(3.4)	(8.8)	—	—	ナデ	—	—	ユビナデ	菊花文	—	

図49　遺構外出土遺物

601H　遺物出土状況（北から）

601H　完掘（北から）

601H　カマドA遺物出土状況（北から）

601H　カマドA完掘（北から）

601H　カマドB完掘（北から）

601H　鉄製品出土状況（北から）

601H　南東隅玉砂利出土状況（東から）

601H　南東隅遺物出土状況（玉砂利の下、北西から）

写真1　竪穴住居跡(1)

602H　完掘（西から）

602H　カマド完掘（西から）

603H　完掘（北から）

603H　カマド完掘（北から）

604H　完掘（西から）

604H　カマド遺物出土状況（西から）

604H　カマド完掘（西から）

604H　カマド完掘（西から）

写真２　竪穴住居跡(2)

605H　焼土・炭化物出土状況（南東から）

605H　焼土・炭化物出土状況（西から）

605H　カマド遺物出土状況（西から）

605H　カマド完掘（西から）

605H　北東隅礫出土状況（南西から）

605H　カマド煙道部掘り方（南から）

605H　カマド煙道部掘り方断面（東から）

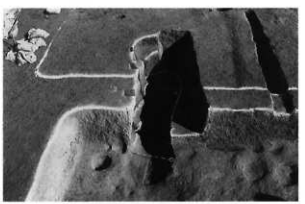
605H　完掘（西から）

写真3　竪穴住居跡(3)

606H　完掘（西から）

606H　カマド煙道断面（南から）

606H　カマド完掘（西から）



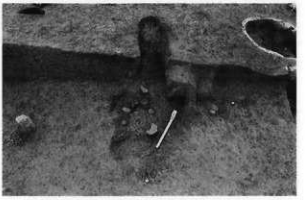
606H　カマド煙出し部掘り方（西から）

606H（手前）・607H（奥右）・608H（奥左）（南西から）

606H（手前）・607H（奥）（西から）

写真 4　竪穴住居跡(4)

607H　完掘（北から）



607H　カマド遺物出土状況（北から）

607H　カマド完掘（北から）

607H　カマド掘り方（北から）

607H　調査風景（北西から）

写真５　竪穴住居跡(5)

608H　確認（北から）

608H　断面（南から）

608H　遺物出土状況（北から）

608H　完掘（北から）

608H　カマド完掘（北から）

608H　カマド掘り方（北から）

608H　調査風景（北西から）

写真 6　竪穴住居跡(6)

609H　完掘（西から）

609H　須恵器皿出土状況（西から）

609H　カマドA完掘（西から）

609H　カマドA完掘（西から）

609H　カマドB完掘（西から）

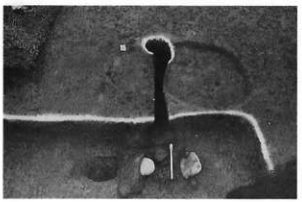
609H（手前右）・612H（手前左）・610H（奥）（北西から）

調査区から青森市街を望む（南東から）

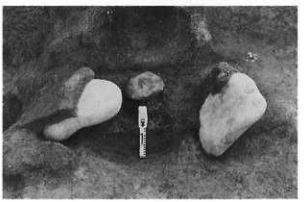
写真7　竪穴住居跡(7)

610H　完掘（北から）

610H　カマド完掘（北から）



610H　カマド完掘（北から）



610H　カマド火床面・袖セクション（北から）

611H　覆土断面（北西から）

611H　完掘（北から）

611H　カマド遺物出土状況（北から）

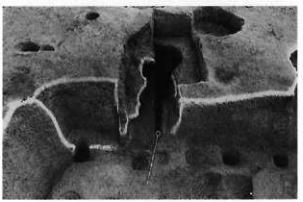
611H　カマド完掘（北から）

写真 8　竪穴住居跡(8)

613H（左）・608H（右）完掘（北から）

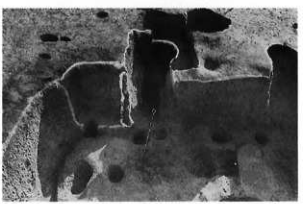
613H（左）・608H（右）完掘（北東から）

613H　北東コーナーとカマド付近（北西から）



613H　新カマド完掘（北から）

613H　新カマド完掘（北西から）

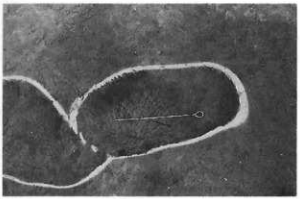


613H　旧カマド完掘（北から）

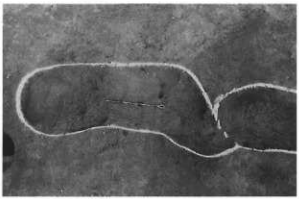
608H・613H　調査風景（北西から）

613H　カマド調査風景（南西から）

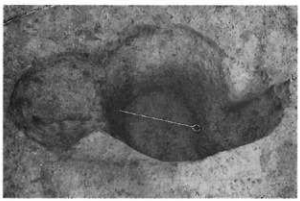
写真 9　竪穴住居跡(9)



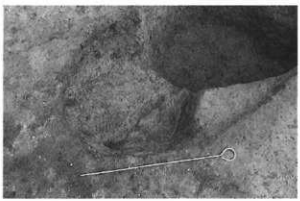
601土　完掘（西から）



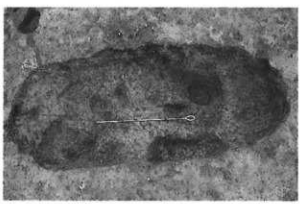
602土　完掘（西から）



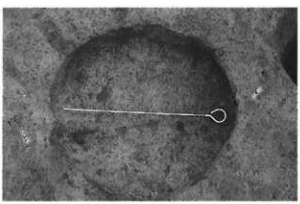
603土（右）・604土（左）完掘（西から）



604土　完掘（西から）

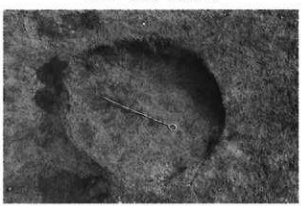


605土　完掘（西から）



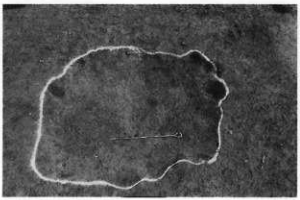
606土　完掘（西から）

607土　完掘（北から）

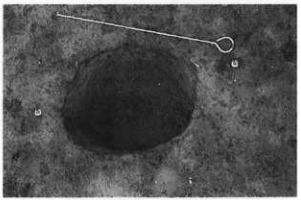


608土　完掘（南西から）

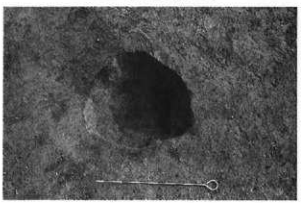
写真10　土坑(1)



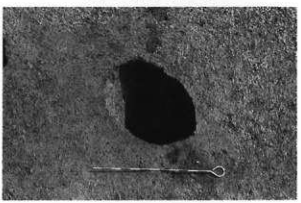
609土　完掘（西から）



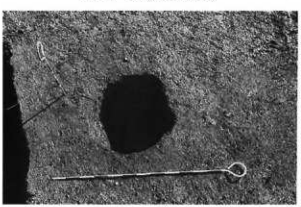
610土　完掘（西から）



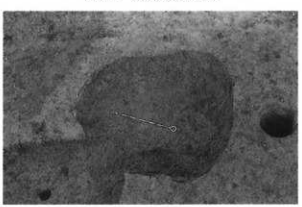
611土　完掘（西から）



612土　完掘（北から）



613土　完掘（西から）



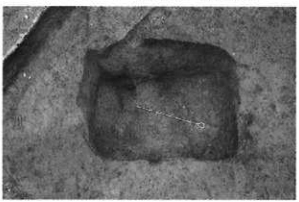
614土　完掘（西から）

615土　完掘（西から）

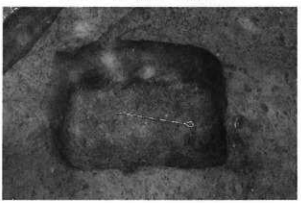
写真11　土坑(2)

616土　B－Tm検出状況（南西から）

616土　覆土断面（南東から）



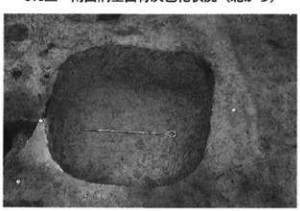
616土　炭化物出土状況（西から）



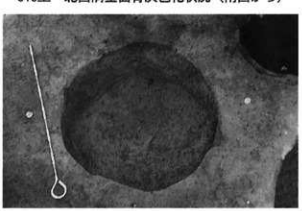
616土　完掘（西から）

616土　南西隅壁面青灰色化状況（北から）

616土　北西隅壁面青灰色化状況（南西から）



617土　完掘（西から）

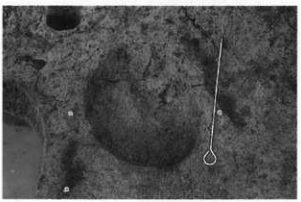


618土　完掘（南から）

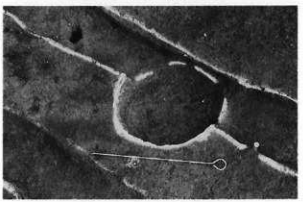
写真12　土坑(3)

620土　遺物出土状況（南から）

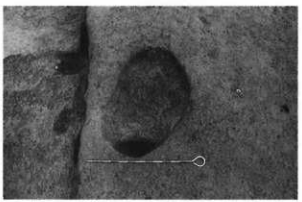
620土　完掘（南から）



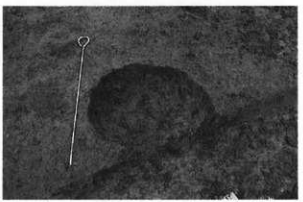
621土　完掘（南から）



622土　完掘（西から）



623土　完掘（西から）



624土　完掘（北から）

調査区南側調査風景（北西から）

写真13　土坑(4)

601溝（右）・602溝（左）完掘（北西から）

603溝（左）・604溝（右）完掘（南東から）

604溝（右）・606溝（左）完掘（南東から）

605溝　完掘（南から）

605溝　完掘（北東から）

607溝(左)・622土(中)・608溝(右) 完掘(南西から)

609溝(中)・610溝(左)・611溝(右) 完掘（南西から）

601掘立　完掘（北から）

写真14　溝状遺構・掘立柱建物跡

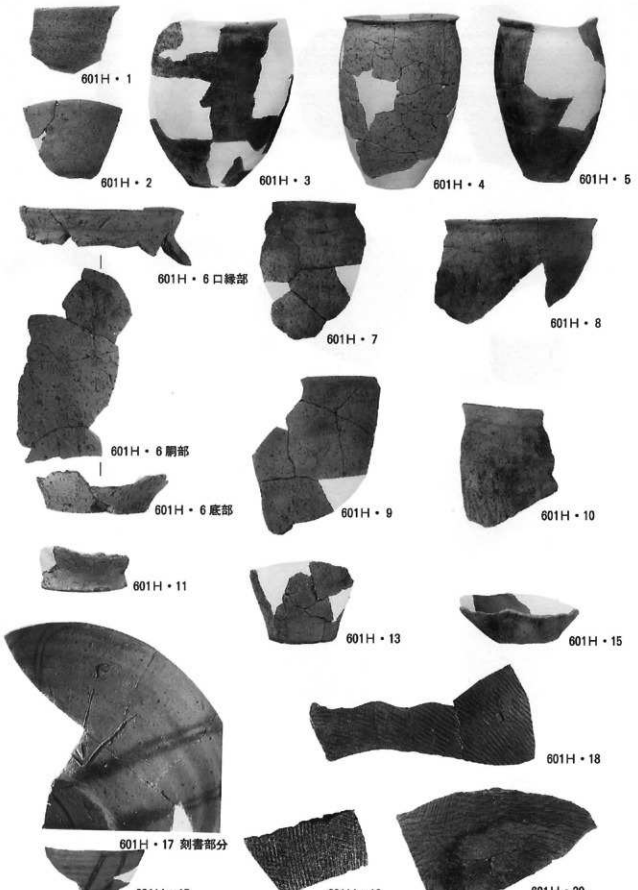


写真15　竪穴住居跡出土遺物(1)

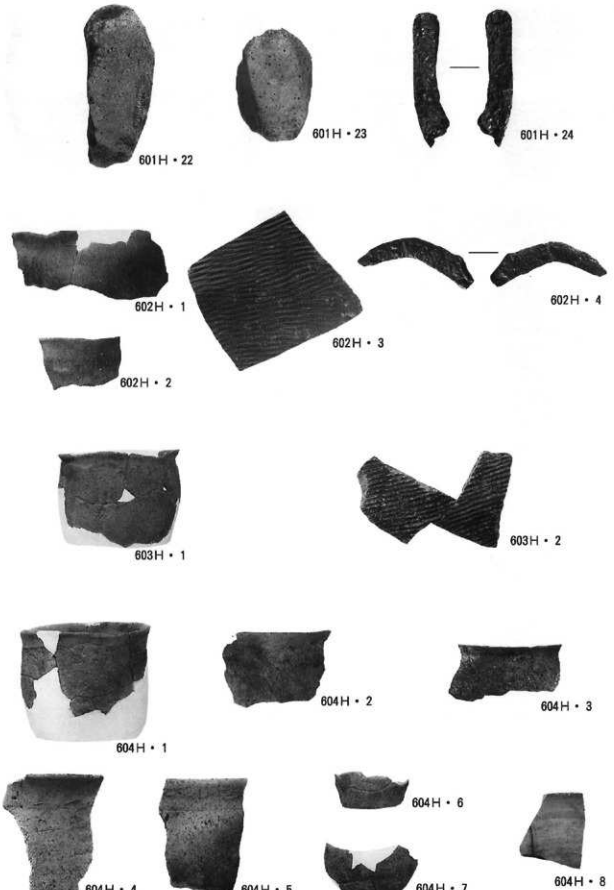


写真16　竪穴住居跡出土遺物(2)

605H・1

605H・2

605H・4

605H・5

605H・6

605H・7

605H・9

606H・1

606H・2

606H・4

607H・1

607H・2

607H・3

608H・1

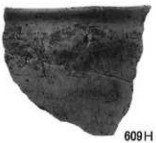
608H・2

608H・3

608H・3 刻書部分

写真17　竪穴住居跡出土遺物(3)

609H・1


609H・2

609H・3

609H・4

609H・6

609H・7

609H・8

609H・9

609H・11

609H・11 刻書部分

609H・10

609H・12

609H・13

609H・14

610H・1

610H・4

610H・5

写真18　竪穴住居跡出土遺物(4)

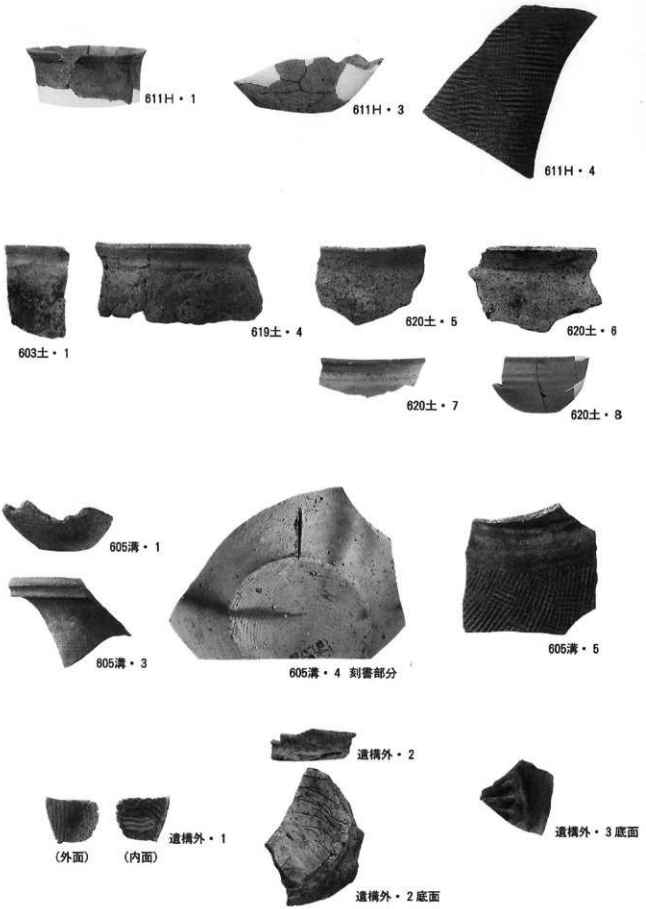


写真19　竪穴住居跡出土遺物(5)、土坑・溝状遺構・遺構外出土遺物

青森県埋蔵文化財調査報告書　第264集

野　木　遺　跡　Ⅱ（第４分冊）

青森中核工業団地整備事業に伴う遺跡発掘調査報告

発行年月日　平成11年３月31日
発　　行　青森県教育委員会
〒030－0801
青森市新町２丁目３番１号
電話0177－22－1111（代表）
編　　集　青森県埋蔵文化財調査センター
〒038－0042
青森市新城字天田内152－15
電話0177－88－5701　FAX. 0177－88－5702
印 刷 所　青森コロニー印刷
〒030－0943
青森市幸畑字松元62－3
電話0177－38－2021　FAX. 0177－38－6753

活彩あおもり
―輝くあおもり岩時代―